

令和8年度 第3回和泉市教育委員会評価委員会

日時 令和8年7月3日（金）午前10時00分～

場所 和泉市役所3階 3A・3B会議室

次 第

1. 開会
2. ヒアリングに基づく点検・評価報告書の修正点について
3. その他
4. 教育次長あいさつ

取組項目説明順序

説明順	取組項目	時間目安
1 学校管理室 (保健給食担当)	12・13	10:05～10:10
2 学校管理室 (教育施設担当)	14・15	10:10～10:15
3 学校教育室 (教育推進担当)	4・5・11	10:15～10:25
4 学校教育室 (教職員担当)	6	10:25～10:30
5 学校教育室 (人権教育担当)	8・9	10:30～10:35
6 学校教育室 (児童生徒支援担当)	7・10	10:35～10:40
7 久保惣記念美術館	22	10:40～10:45
8 文化遺産活用課	21	10:45～10:50
9 生涯学習推進室 (青少年センター)	25	10:50～10:55
10 生涯学習推進室 (地域教育推進担当)	23・24	10:55～11:00
11 生涯学習推進室 (スポーツ振興担当)	18・19	11:00～11:05
12 生涯学習推進室 (生涯学習担当)	26 (読書振興)	11:05～11:10
	27 (国際交流)	11:10～11:15
	16・17 (生涯学習)	11:15～11:20
	20 (生涯学習)	11:20～11:25

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	12	事業名	食育及び学校給食	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校園管理室保健給食担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校管理室保健給食担当

予算額	698	百万円	決算額	642	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
たくましく生きるための「健康・体力」の増進	心身の健康を増進する	自校調理による安全で栄養バランスの良い学校給食を提供し、家庭・地域と連携した食育を推進するとともに、食への理解を深める	①調理員を対象とした衛生管理研修 ②家庭における食育の啓発(給食だよりやホームページでの献立の紹介及び市広報を通じた献立レシピの紹介) ③槇尾学園調理業務委託

●令和6年度の課題と改善策

- ①自校調理による安心・安全でおいしい給食の提供の維持・継続のため、調理員に対し、衛生管理やアレルギー事故防止のための研修を引き続き実施する。
③給食調理委託新規校については、円滑に業務を開始することができるよう、学校や委託事業者と協議・調整を図る。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	12	事業名	食育及び学校給食	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校園管理室保健給食担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校管理室保健給食担当

●令和7年度の事業評価

たくましく生きるための「健康・体力」の増進	①委託事業者を含む学校・保育園の調理員を対象に、調理機器の適切な管理方法等についての研修会や食育の取り組みの実践発表会を開催したことで、調理機器の知識習得による安全な調理業務および食育推進につなげることができた。 ②学校の「給食だより」や「ホームページ」での給食献立の紹介や「広報いずみ」への給食献立レシピの紹介を通じて、バランスの良い食生活について市民に情報提供を行い、食育推進の一助とすることができた。 ③槇尾学園給食室巡回指導業務を含め、定期的に給食室の衛生管理を行うことで、安心安全な給食提供をすることができた。
-----------------------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
学校給食がおいしいと感じている児童の割合(目標値：95.0%以上)	95.0 (100.0%)	96.0 (101.1%)	94.9 (99.9%)	A
学校給食がおいしいと感じている生徒の割合(目標値：92.0%以上)	90.1 (97.9%)	94.1 (102.3%)	94.2 (102.4%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①③自校調理による安心・安全でおいしい給食の提供の維持・継続のため、衛生管理等の研修会を継続的に開催し、調理員等の資質向上を図るとともに、給食調理委託校については、給食室巡回指導事業による衛生管理指導を実施する。 なお、小学校における「学校給食がおいしいと感じている割合」が目標値をわずかに下回ったものの、継続した取組みを進め、引き続き高い水準を維持できるように努める。 ※予算額と決算額の差異（56百万円）の主な要因は、保護者負担の軽減を図る学校給食費補助金について、対象児童生徒数の確定に伴うもの、並びに給食費に余剰金が生じ、補助上限額までの補助を要さなかったほか、需用費（ガス使用料、燃料費）において不用額が発生したことによるもの。
--

●評価委員からの主な意見

和泉市の学校給食、食育の取組みは、食の大切さを重視している点で評価できる。 令和8年度から小学校の給食無償化がスタートし、国の補助が十分でない課題もあるが、今後も給食の質を維持するよう努められたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	13	事業名	学校保健の充実	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校園管理室保健給食担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校管理室保健給食担当

予算額	87	百万円	決算額	76	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
たくましく生きるための「健康・体力」の増進	心身の健康を増進する	各種健康診断や学校内事故に対する対応体制の確保など授業を受けるための環境支援に取り組む	①健診の有所見者の受診率向上のための効果的受診勧奨方法の検討（各校での取り組みの集計結果から好事例を養護教諭部会で共有し、効果的な勧奨方法について議論を進める） ②教職員の食物アレルギー対応に係る知識の習得のための研修会の開催

●令和6年度の課題と改善策

①健診の有所見者の受診率向上に向けた学校ごとの取組みを養護教諭部会で情報共有し、効果的な受診勧奨方法を検討する。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	13	事業名	学校保健の充実	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校園管理室保健給食担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校管理室保健給食担当

●令和7年度の事業評価

たくましく生きるための「健康・体力」の増進	①養護教諭部会において、中学校区単位で各校での取組みを共有し、受診率が向上した好事例を報告することで、健診の有所見者の受診に繋がる取組みの議論を深めることができた。 ②教職員の食物アレルギー対応に係る知識の習得のための研修会を2回開催した。また、受講できなかった教職員に向けて、研修の動画配信を行うことで、学校給食に携わる多くの教職員に、食物アレルギー対応の理解を深める機会を提供することができた。
-----------------------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
内科健診有所見者受診率(目標値: 50.0%以上)	52.1 (104.2%)	43.6 (87.2%)	47.3 (94.6%)	A
歯科健診有所見者受診率(目標値: 50.0%以上)	55.7 (111.4%)	57.4 (114.8%)	45.9 (91.8%)	A

※達成度の凡例 S: 目標達成 A: 達成率90%以上 B: 達成率80%以上 C: 達成率80%未満(前年度より改善) D: 達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①児童生徒が適切な形で治療や生活習慣改善につながるよう、健診の有所見者のさらなる受診率向上をめざすべく、各校がこれまでの取組みを継続させるとともに、新たな取組みを検討する。 ②令和9年度から学校給食における食物アレルギー対応が、食物アレルギーの原因となる食物を提供するかしないか、いわゆる『二者択一』の完全除去対応となるため、学校給食に携わる教職員の知識の習得に必要となる研修会を開催し、スムーズに移行できるよう取り組む。

●評価委員からの主な意見

健診有所見者の受診率向上に向けては、保護者の健康意識を高める必要がある。保護者の意識高揚のための啓発に取り組まれない。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	14	事業名	教材の充実・管理経費の適正化	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校園管理室教育施設担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校管理室教育施設担当

予算額	891	百万円	決算額	659	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
教育環境の充実	学びの意欲を向上させる学習環境の提供	児童生徒が授業を受けやすい学習環境・教職員が授業を行いやすい環境づくりに取り組む	①段階的な35人学級制度への移行等に伴うクラス数の増加に対応するため、計画的な物品調達を実施 ②令和6年度、7年度に小学校体育館、特別教室、給食調理室へ空調設備を設置したことを踏まえ、光熱水費の抑制を図るため、空調設備の適正利用を推進 ③児童生徒の読書環境の充実を図るため、新たな図書の調達を実施。

●令和6年度の課題と改善策

②継続している物価高騰を踏まえ、更なる適正利用を推進するため学校へ周知を行っていく必要がある。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	14	事業名	教材の充実・管理経費の適正化	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校園管理室教育施設担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校管理室教育施設担当

●令和7年度の事業評価

教育環境の充実	①児童数の増加等に伴うクラス増に対応すべく、信太小学校、南松尾はつが野学園に必要物品を調達した。 ②校長会を通じ、物価高騰及び空調設備の増設に伴い増加する光熱費の抑制を図るよう、空調設備の適正利用を促した。 ③児童生徒が様々な図書に触れる機会を創出し、読書教育の促進を図るべく、新たな図書の調達を行うとともに、公立図書館の団体貸出の活用などを行った。
---------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
学校図書館図書標準の達成校数(目標値：全校達成 ※R5～6は30校、R7は28校)	26 (86.7%)	27 (90.0%)	23 (82.1%)	B

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②今後も物価高騰は続くと思込まれることから、空調設備等の適正利用を推進するため学校へ継続的に周知を行っていく必要がある。 ③一部の学校において、施設一体型義務教育学校への移行を見据えた蔵書の整理を行ったことから、学校図書館図書標準を下回る結果となった。未達成の学校については、新たな図書の調達により、図書標準の達成をめざしていくほか、公立図書館の団体貸出しの活用等も促進し、児童生徒の読書環境の充実を図る。 ※予算額と決算額の差異（232百万円）の主な要因は、物価高騰対策として、国の補助制度により光熱費の減額措置が図られ、不用額が発生したため。
--

●評価委員からの主な意見

昨今は夏の暑さが厳しく室温管理が難しい状況だが、物価高騰の状況も鑑み、学校における空調設備等の適正利用推進に努められたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	15	事業名	小中学校の施設維持管理	担当課 (機構改革前)	教育・こども部教育総務課、 学校園管理室教育施設担当
				担当課 (機構改革後)	教育部教育総務課、 学校管理室教育施設担当

予算額	3,092	百万円	決算額	2,267	百万円
-----	-------	-----	-----	-------	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
教育環境の充実	安全・安心で快適な学校環境の提供	学校生活が快適に過ごせるような環境整備や少子化傾向・施設の老朽化を勘案したファシリティマネジメントに取り組む	①令和9年4月の開校に向けて、（仮称）富秋学園の実施設計を策定し、新校舎整備に着手 ②和泉市教育施設等長寿命化計画に基づき、国府小学校において大規模改修を実施するとともに、令和8年度施工予定の設計業務を実施（5校） ③災害時避難所である小学校の体育館、小中義務教育学校の特別教室等への空調整備を実施（12校）

●令和6年度の課題と改善策

①（仮称）富秋学園において、特別教室棟の解体工事後、新校舎を建築することから、学校運営に支障が生じないよう学校や事業者等と十分な調整が必要となる。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	15	事業名	小中学校の施設維持管理	担当課 (機構改革前)	教育・こども部教育総務課、 学校園管理室教育施設担当
				担当課 (機構改革後)	教育部教育総務課、 学校管理室教育施設担当

●令和7年度の事業評価

教育環境の充実	①令和9年4月の(仮称)富秋学園の開校に向けて、令和7年6月に実施設計を策定し、同年7月に新校舎整備工事に着手した。 ②和泉市教育施設等長寿命化計画に基づき、国府小学校において、大規模改修(屋上防水・外壁の改修等)を実施するとともに、令和8年度施工予定の設計業務を実施した。(5校) ③災害時避難所である小学校の体育館の空調整備及び非構造部材の耐震化改修(いぶき野小学校・南池田小学校)の実施に加えて、小中義務教育学校の特別教室や給食調理室への空調整備工事を実施した。(12校)
---------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
校舎大規模改修の実施棟数(目標値:1棟)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	S

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①②(仮称)富秋学園の整備及び大規模改修の実施に際し、学校運営を継続した中での工事となることから、影響を最小限にするため、学校や工事業者等との十分な調整が必要となる。 ※予算額と決算額の差異(825百万円)の主な要因は、①(仮称)富秋学園整備事業において、当初予定していた年度末の部分払について、業者との協議により請求がなくなり翌年度に繰越となったため。

●評価委員からの主な意見

昨今の物価高騰や人手不足が工事に影響することも想定されるが、小中学校の施設維持管理は子どもの学校生活に直結するものであることから、計画や方針をしっかりと定めながら取り組まれない。
--

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	4	事業名	学力向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当

予算額	1,553	百万円	決算額	1,246	百万円
-----	-------	-----	-----	-------	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	豊かな知識や技能を身に付けた児童生徒を育む	基礎学力の確かな定着を図るとともに、社会の変化に対応した教育に取り組む	①和泉市教職員全体研修の開催 ②関係部局との合同研修による幼児教育と学校教育を一貫する研究 ③いずみ希望塾の実施およびAIドリルの活用
	主体的に判断・行動し、問題解決に導くことができる資質と能力を備えた児童生徒を育む	「思考力・判断力・表現力」を身につけることができる教育に取り組む	④各学校の取組好事例を全校に普及 ⑤「主体的・対話的で深い(STF)和泉の学び育成プラン」を活用し、授業改善の取組みをさらに充実 ⑥プログラミング的思考の育成について、PDCAサイクルをまわすことにより年間指導計画を改善
	児童生徒一人ひとりの学び意欲と個性をひきだす	「わかる授業づくり」を推進する	⑦「主体的・対話的で深い(STF)和泉の学び」を推進するため、全校訪問(年3回)を実施し、授業改善の取組普及、及び校内研修等の好事例を他校にも広げるポータルサイトの充実 ⑧デジタル採点分析システムを活用した、生徒一人ひとりに合った学習支援 ⑨研究校(小学校3校)において、標準学力調査(国・算、2～5年生)を実施し、結果分析に基づいて授業改善

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	社会の情報化に対応した資質・能力を育む	デジタル機器を積極的に活用した教育に取り組む	⑩1人1台学習用端末を活用した授業づくり並びに個別最適で協働的な学びの推進のための研修 ⑪専門家が各学校をアセスメントし、課題を明確にした上で、実態に応じた助言や改善策を提案する「GIGAスクール推進事業」の実施

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	4	事業名	学力向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当

●令和6年度の課題と改善策

- ③AIドリルの活用が進んできているものの、学校間や教員間での差があるため、使用場面や方法を検討し、効果的な活用を推進する。
④学校訪問等を通して、各学校の取組み進捗状況を把握するとともに、学力向上において成果を上げている学校の取組みを水平展開する。

●令和7年度の事業評価

自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	①和泉市教育フォーラムにおいて、講演「教育DXのめざす学びのデザイン」を実施することで、次期学習指導要領の方向性や生成AIの使用、探究学習等、授業観の転換を図る必要性について理解が深まった。(アンケート肯定的回答98.1%) ②保育園・幼稚園・こども園への保育体験、小学校授業公開、合同担当者会議の機会を確保し、私立公立の垣根を越えた連携を行い、子どもの姿の共有ができた。また、モデル校区の取組みをもとに「かけはしカリキュラム」のモデルカリキュラムを作成した。 ③いずみ希望塾を6会場11区分で実施し、年度途中参加72人を含め731人が受講。年度当初からの辞退者を除き、全員受講可となり、学習の機会を確保できた。(対面指導：40回、家庭学習履歴確認支援：40回) AIドリルについては、これまで対象を小4～中3としていたものを、より活用しやすいく中1～中3に見直した。学校間の差はあるものの、AIドリルの活用率が向上した。(中1～中3のAIドリル活用率〈WAU：週あたり1回以上ログインした生徒の割合〉R6：41.6%→R7：44.0%) ④毎学期、定期的に学校訪問(84回)を実施し、好事例の普及を行った。また、年間4回の授業改善担当者会等を通じて、好事例を共有し、取組みの水平展開に向けた研修を開催した。 ⑤毎学期、各校においてプランの進捗状況の確認及び次学期への計画の修正を行い、学校訪問時に管理職へのフィードバックを行った。各校とも、児童生徒・教員アンケートの数値や国・府の学力調査の結果を活用しながら、定期的に定性、定量評価を実施することで、授業改善が進んだ。 ⑥プログラミング的思考の育成に向け、ICT担当者会で各校が持ち寄った年間計画や実践事例を比較・検討し、各校の年間指導計画を改善した。 ⑦各学期に各校1回の全校訪問を実施し、指導主事と学力向上支援員による全教室参観に基づいて管理職・授業改善担当者と課題を共有し、STF和泉の学び育成プランをもとに指導と助言を行った。また、好事例共有のためのポータルサイトの充実を図った。(掲載件数：令和7年度末時点 3,555件(前年度比380件増)) ⑧デジタル採点・分析システムを活用した弱点補強問題の配信等により、生徒一人ひとりに合った学習支援を行った。 ⑨標準学力調査を実施し、その結果分析により明らかとなった課題に対する取組みを早期に実施することの重要性について、授業改善担当者会等で共有を図ることができた。
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	⑩今年度、1人1台学習者用端末が「起動や動作の速さ」、「直感的な操作性」や「端末の軽さ」などの点において、より使いやすいうものに更新され、文房具としての活用が広まった。(児童生徒アンケート「パソコンやタブレットを使うことで、楽しみながら学習を進めることができる」の肯定的回答3学期末時点91.4%) ⑪今年度8校において「GIGAスクール推進事業」を実施し、各学校の実態に応じた助言や改善策が提示された。(児童生徒アンケート「パソコンやタブレットを使うことで、自分のペースで学習を進めることができる」の3学期末時点における事業実施校8校の肯定的回答は85.2%(R6:57.2%))

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	4	事業名	学力向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
全国学力・学習状況調査における対府比(小6)(目標値:1.00)	0.95 (95.0%)	1.00 (100.4%)	0.97 (97.0%)	A
全国学力・学習状況調査における対府比(中3)(目標値:1.00)	0.90 (90.0%)	0.94 (94.0%)	0.94 (94.0%)	A
児童生徒アンケートにおける授業に関する項目の肯定的回答割合(小学生)(目標値:85.0%)	82.8 (97.4%)	82.7 (97.3%)	82.7 (97.3%)	A
児童生徒アンケートにおける授業に関する項目の肯定的回答割合(中学生)(目標値:85.0%)	82.5 (97.1%)	83.1 (97.8%)	85.0 (100.0%)	S

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②令和7年度に作成した架け橋期のカリキュラム「和泉市かけはしカリキュラム」のモデルカリキュラムを、今後水平展開し、各学校園にて実態に則した内容へ見直し、活用、振り返りを行うために、保育園・幼稚園・こども園・小学校及び義務教育学校の相互理解と連携を強める必要がある。そのため、各園長・小学校長・中学校長・義務教育学校長が連絡調整・情報交換等を行う和泉市こどもかけはし連絡会を実施するとともに、保育体験・授業参観・担当者連絡会の実施・充実を図る。

③これまで実施してきた学力向上に係る事業の評価や分析を行い、今後の施策展開を検討するため、有識者を含む学力向上検討委員会を設置し、施策の見直しを図る。

※予算額と決算額の差異(301百万円)の主な要因は、1人1台学習者用端末の更新に伴う、府の共同調達に係る府実施の入札による落札減額によるもの

●評価委員からの主な意見

AIドリルの活用にあたっては、学校間で活用率に差があるとのことだが、令和8年度に開催する学力向上検討委員会における有識者の意見も踏まえ、より効果的な施策を検討されたい。

また、学力向上の検討にあたっては、学力を対府比でみるだけでなく、市内の学校間格差の推移を把握し、課題のある学校に対して重点的な支援を行うといった視点も重要である。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	5	事業名	英語教育・読書教育	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当

予算額	183	百万円	決算額	167	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	国際社会に貢献する人材を育む	世界の人々と協働するため、国際社会への理解や英語力とコミュニケーション能力を高める教育に取り組む	①教員の授業力、指導と評価の一体化に向けた研修を年3回実施 ②ALTを配置し、英語活用の実際の場面やコミュニケーションを主眼とした授業の実施。また、授業外でALTが中心となり、小学5・6年生を対象とした「イングリッシュワールド」、中学生を対象とした「イングリッシュデイ」を各1回実施 ③中学校全学年への英検受験料の補助、英語力向上支援講座受講料一部補助の実施

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	主体的に判断・行動し、問題解決に導くことができる資質と能力を備えた児童生徒を育む	知的活動の基盤となる国語能力を向上させる読書活動に積極的に取り組む	④学校図書館司書の資質向上や、各校の取組みなどの情報共有を目的とした学校図書館司書連絡協議会の開催 ⑤学校図書館の学習・情報・読書センター機能の充実に向けて、各校の取組事例を司書教諭連絡協議会等で共有

●令和6年度の課題と改善策

①②③英検3級相当（CEFR A1 相当）以上の中3生の割合を令和9年度までに60%とする目標に対して、段階的な上昇がみられているが、府・国の数値を下回っている。令和7年度は、中学校全生徒を英検受験料補助の対象に拡充することで、生徒の受験をより一層促す。また、小学校においては英語専科教員、中学校においては英語コーディネーターを中心に具体的な授業実践を通じて、授業力向上に向けた研修や担当者会を実施する。

④⑤電算化を行った槇尾学園の学校図書館活用の取組みをはじめ、効果的な取組みについて、共有を図る。また、司書教諭連絡会、学校図書館司書連絡協議会と連携し、国語科を中心としたさまざまな教科での学校図書館を活用した授業づくりを行うとともに、使いやすく魅力的な学校図書館となるよう環境づくりをすすめることで読書活動の推進を図る。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	5	事業名	英語教育・読書教育	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当

●令和7年度の事業評価

情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	①英語コーディネーターの授業公開研修を年3回実施し、小学校英語専科教員と各中学校及び義務教育学校の担当教員による研究協議を通して、小中の系統的な指導と評価についての理解が深まり、教員の授業力向上が図られた。 ②市内全校へのALTの配置により、コミュニケーションを主眼とした授業実践に取り組んだ。教員英語アンケートでは、「具体的な場面や状況を設定した言語活動をおこなっている」と回答した割合が83.8%となっており、目的を明確にした言語活動を設定した授業の実践が進んだ。また、小学5・6年生を対象とした「イングリッシュワールド」には41人(R6:56人)、中学生を対象とした「イングリッシュデイ」には10人(R6:14人)が参加し、ALTとの英語のやり取りやディスカッションを通じ、英語でのコミュニケーション能力の向上が図られた。 ③英検受験料補助の対象を中学3年生のみから中学全学年に拡充したことにより、活用生徒数が増加(R6:621人⇒R7:1,194人)し、英語力向上の意欲を高めることにつながった。
自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	④学校図書館司書の資質向上や各校の取組みの水平展開を図るため、学校図書館司書研修会を年8回実施した(校種別に各4回)。うち6回は市内各校を会場に指定して市内学校図書館の視察も行うことで、自校への取組み反映や、各校の課題解決の参考となった。 ⑤司書教諭連絡協議会を開催し、市の読書活動推進の状況と全国学力・学習状況調査の現状を共有した。さらに「大阪府情報活用能力ステップシート」による自校の取組みの進捗状況を把握共有することで、中学校区内での連携や校種間接続をふまえた取組みの検討が進んだ。

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
英検3級相当(CEFR:A1相当)以上の中学3年生の割合(目標値:60.0%以上:令和9年度達成<R6 51.0%、R7 54.0%、R8 57.0%>)	46.7 (97.3%)	49.7 (97.5%)	53.5 (99.1%)	A
全国学力・学習状況調査(国語)における対府比(小6)(目標値:1.00)	0.95 (95.0%)	1.01 (101.0%)	0.98 (98.0%)	A
全国学力・学習状況調査(国語)における対府比(中3)(目標値:1.00)	0.93 (93.0%)	0.96 (96.0%)	0.96 (96.0%)	A

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	5	事業名	英語教育・読書教育	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①②③英検補助事業を中学3年生から中学全学年に対象を拡充したことで、利用生徒数は1,194人となり、昨年度より573人増加した。次年度は塾等で申込をおこなった準会場受験も補助対象に拡充することで、さらなる制度の充実を図るとともに、教員の具体的な場面や状況を設定した言語活動を増やす授業改善を進め、児童生徒の英語学習への意欲向上と学力向上をめざす。
④⑤先行して電算化を行った槇尾学園の効果的な学校図書館活用の事例をもとに、市域の学校図書館の電算化や読書活動推進の取組みを加速させ、より活用しやすい魅力的な学校図書館を整備することで、子どもたちの読書活動の充実を図る。

●評価委員からの主な意見

英検受験料補助事業の対象学年拡大は、生徒の学習意欲向上に寄与する取組みとして評価する。
今後も、国際社会で活躍する人材を育成するべく、児童生徒の英語力とコミュニケーション能力の向上につながる取組みを検討されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	11	事業名	健康教育・体力向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当、 児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当、 児童生徒支援担当

予算額	141	百万円	決算額	126	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
たくましく生きるための「健康・体力」の増進	成長の基礎となる健康・体力を増進する	運動習慣の定着に向けた取組みを推進する	①市主催の水泳記録会(民間屋内プール施設を活用)、陸上競技大会(光明池緑地運動場)を開催し、子どもの運動意欲向上や運動機会の確保を推進 ②担当教員研修会を通じて、指導方法の工夫改善により、各校の運動習慣・体力づくりの取組みを推進 ③学校プールの水泳授業にインストラクターを派遣(R6:小学校6校、R7:中学校等9校)
		心身両面の健全な発達を育む取組みを推進する	④各校において、和泉市薬剤師会等による「薬物乱用防止教室」を実施 ⑤青少年薬物汚染防止対策推進会議を年2回開催

●令和6年度の課題と改善策

①②③「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、小学5年男子が50.99から51.62、女子が52.16から53.15、中学2年女子が45.47から46.39と令和5年度と比べ令和6年度の体力合計点が高くなっている一方で、中学2年男子が41.14から40.64と令和5年度と比べ、令和6年度の体力合計点が低くなっている。一定回復傾向が見受けられるが、運動能力の育成、運動習慣の定着には未だ課題が残る。今後も、継続的な取組みが必要であり、運動機会を確保してだけでなく、研修や担当者会の中で様々な好事例を市全体で積極的に共有し、子どもたちの体力向上につなげていく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	11	事業名	健康教育・体力向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当、 児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当、 児童生徒支援担当

●令和7年度の事業評価

たくましく生きるための「健康・体力」の増進	①小学6年生を対象に、7月29日に「水泳記録会」(391人参加申込み)、11月8日に「陸上競技大会」(641人参加申込み)を実施し、運動意欲、運動機会の確保を行った。 ②5月23日に小中学校の体力向上担当者会を実施し、体力づくり推進計画の活用推進を図った。また、大阪体育大学准教授小林博隆氏を講師に招き、12月5日に体づくり運動に関して「小学校体育実技講習会」を実施し、体育主任や体育専科加配教員を中心に54人の教職員参加があった。主運動につながる基礎的な運動能力の育成や仲間づくりに繋がる活動について体験し、限られた用具や時間の中で運動量を確保した指導方法について見識を深めることができた。 ③学校水泳授業民間屋内プール活用事業は、小学校等全20校に拡充し実施した。民間屋内プールを活用していない中学校等9校には、インストラクターを派遣した。(民間屋内プールを活用した水泳授業を行った児童生徒アンケートにおける「『泳ぐ力』は伸びたと思いますか。」に対する肯定的な回答:78.7%) ④和泉市薬剤師会と連携し、9校で薬剤師による薬物乱用防止に係る出前授業を実施し、879人が受講した。その他の学校においても、医師や保健師などによる出前授業を実施した。 ⑤青少年薬物汚染防止対策推進会議で決定した計画に基づき、薬物乱用防止についての教職員悉皆研修を実施し、教職員の意識の向上を図った。また、教材を作成し、全中学校及び義務教育学校後期課程の全生徒に薬物乱用防止の授業を実施することにより、薬物乱用防止について生徒一人ひとりが向き合い学びを深めることができた。
-----------------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
全国・体力、運動能力、運動習慣等調査において、対象学年(小5・中2)男女の体力合計点 (対府比)(小5)(目標値:1.01)	男:0.99 (98.0%)	男:0.99 (98.0%)	男:1.02 (100.7%)	S
	女:0.99 (98.0%)	女:1.01 (100.0%)	女:1.01 (100.0%)	S
全国・体力、運動能力、運動習慣等調査において、対象学年(小5・中2)男女の体力合計点 (対府比)(中2)(目標値:1.01)	男:1.03 (102.0%)	男:1.01 (100.0%)	男:0.99 (98.3%)	A
	女:1.00 (99.0%)	女:1.02 (101.0%)	女:0.98 (96.9%)	A

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	11	事業名	健康教育・体力向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当、 児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当、 児童生徒支援担当

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①②③「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、小学5年男子が51.62から53.17、女子が53.15から53.38と、令和6年度と比べ令和7年度の体力合計点が高くなっている一方で、中学2年男子が40.64から40.45、中学2年女子が46.39から45.24と、令和6年度と比べ令和7年度の体力合計点が低くなっている。小学5年生では男女ともに一定回復傾向が見受けられるが、中学2年生では運動能力の育成、運動習慣の定着には未だ課題が残る。今後も中学校における授業改善とともに、小学校段階からの継続的な運動機会の確保や運動習慣の定着を図り、子どもたちの体力向上につなげていく。

④⑤薬物乱用防止については、すべての生徒が自分事としてとらえ、向き合う必要がある。そのため、次年度は令和7年度に生徒が作成した啓発標語やデザインをもとにポスターを作成し、市内の各施設に掲示することで、薬物乱用防止のさらなる啓発を図る。

●評価委員からの主な意見

水泳記録会、陸上競技大会とも参加率が高く、子どもの運動意欲向上、運動機会の確保を目的とした良い取組みである。
引き続き、児童生徒の運動習慣の定着に向けた取組みを推進されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	6	事業名	教職員の資質向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当、 教職員担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当、 教職員担当

予算額	150	百万円	決算額	120	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	児童生徒一人ひとりの学び意欲と個性をひきだす	教職員の資質と能力の向上を図る	①中学校35人学級編成に係る市費負担任期付教育職員の配置 ②これからの子どもたちが身につける「資質・能力」の育成をめざし、公開校内研修の充実、自ら学ぼうとする教員を育成するための重点研修や和泉市一括募集研修等を充実 ③スクールサポートスタッフ配置校を14校（小学校13校、義務教育学校1校）から16校（小学校14校、義務教育学校2校）に拡充

●令和6年度の課題と改善策

②授業改善の取組みをさらに進めるために、学校公開や研修を積極的に行い、教員の学びの場の充実を図る。
 ③スクールサポートスタッフ配置校については、未配置校と比べ、時間外在校等時間が減少している成果が見られたが、依然として、時間外在校等時間が多い教員が一定数いるため、今後も順次、スクールサポートスタッフの活用を推進するとともに、各校における教育課程編成の見直しを実施する等、労働環境や業務の改善を図る。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	6	事業名	教職員の資質向上	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室教育推進担当、 教職員担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室教育推進担当、 教職員担当

●令和7年度の事業評価

自らの未来を切り拓く「確かな学力」の育成	①対象を中学1年生から中学1・2年生に拡充することで、より多くの生徒に対し、一人ひとりの個に応じたきめ細やかな教育活動の充実をおこなった。 ②各校の校内研修を広く市内教員に周知し、研修機会を創出するとともに取組みの水平展開を図った。また、長期休業日を中心に和泉市一括募集研修を開催し、自ら学ぼうとする教職員の資質・向上を図った。(公開校内研修80回、夏季15講座161人、冬季5講座35人) ③スクールサポートスタッフ配置校の所属教員へのアンケート調査では、「業務量の軽減や時間外勤務の短縮につながった」の肯定的回答が前年比1.2ポイント向上(R6:94.5 R7:95.7)し、教員の働き方の充実を図ることができた。また、新規配置校の1人あたりの月平均時間外在校等時間は、2時間程度減少した。
----------------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
教員アンケート(資質・能力を育む授業づくり)の数値の肯定的回答割合の向上(目標値: 85.0%)	85.2 (100.2%)	85.4 (100.5%)	86.8 (102.1%)	S

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②授業改善の取組みをさらに進めるため、学校公開や研修を積極的に行うとともに、学習指導要領の次期改訂を見据えた情報提供等、教員の学びの場の充実を図る。 ③スクールサポートスタッフ配置校の16校のうち11校が、昨年度に比べて、時間外在校等時間が減少(1校1人あたりの平均1.6時間/月 減少)する成果が見られた。時間外在校等時間が減少しなかった学校については、月の時間外在校等時間が80時間以上となっている教員数の割合が市の平均よりも多く、業務が一部の教員へ偏っている状況にあることが要因として考えられる。引き続き、スクールサポートスタッフの活用や、各校における教育課程編成の見直しを実施する等、労働環境や業務の平準化などの改善を図る。
--

●評価委員からの主な意見

スクールサポートスタッフ配置校では、業務量の軽減、時間外勤務の短縮など、教員の働き方改革の充実が図られていることから、今後も安定的な配置に向けた取組みを継続されたい。 一方、スクールサポートスタッフ配置校のうち、時間外在校等時間が減少しなかった学校については、要因の分析をしっかりと行い、課題への対応を検討されたい。
--

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	8	事業名	道徳教育	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室人権教育担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室人権教育担当

予算額	2	百万円	決算額	2	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	人間性豊かな児童生徒を育む	道徳的価値を深めることができる環境づくり、授業づくりに取り組む	①「特別の教科 道徳」について、道徳教育推進教師の研修 ②道徳教育全体計画の別葉を活用した道徳教育の推進 ③道徳教育推進事業（文科省・大阪府委託）の取組み（和泉中学校）

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	郷土和泉を誇りに思い愛する心を育む	郷土の伝統と文化を正しく理解し、深めるための教育に取り組む	④伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度を育成し、郷土への誇り、地域における伝統などについて理解を深める「特別の教科 道徳」の授業 ⑤社会科副読本「わたしたちの和泉市」、郷土史読本「こがねちゃんと出かけよう！いずみ歴史さんぽ」「郷土の学習」等を活用し、児童生徒の郷土和泉を誇りに思い愛する心を育む授業(対象学年ごとに年間1回以上)

●令和6年度の課題と改善策

②全校において、「道徳教育全体計画の別葉」を活用して道徳教育を推進することはできた。しかし、保護者や地域の人々の参画等による家庭や地域社会と一体となった道徳教育に関する取組みの推進、及び積極的な情報発信については改善の余地があるため、今後、ブログや学校通信による情報発信について学校への助言を進めていく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	8	事業名	道徳教育	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室人権教育担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室人権教育担当

●令和7年度の事業評価

「豊かな心」の育成	①全校において、和泉市道徳教育推進研修会を年2回実施し、道徳教育の授業構想や評価について再確認するとともに、「考え・議論する道徳」の推進を図った。 ②全校において、「学校教育全体で行う道徳教育」を展開するにあたり、「道徳教育全体計画の別葉」を活用した。また、地域人材を活用し、講話等を通して、道徳性を育む取組みを行った。 ③道徳教育推進事業（文科省・大阪府委託）の取組み（和泉中学校）では、研究授業を公開し、市域にその取組みを普及した。
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	④⑤「特別の教科 道徳」の中で、伝統と文化の尊重や、国や郷土を愛する態度を育成し、郷土への誇り、地域における伝統などについて深める教材を活用した授業を行った。（全国学力・学習状況調査における「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答 小学校 R06:80.8→R07:78.2%、中学校 R06:72.6→R07:68.9%）

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の肯定的回答割合（小6） （目標値：88.0%）	82.0 (93.2%)	89.1 (101.3%)	89.2 (101.4%)	S
全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の肯定的回答割合（中3） （目標値：80.0%）	78.0 (88.6%)	87.6 (109.5%)	86.7 (108.4%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①④⑤「道徳教育全体計画の別葉」を活用することで、各校で行っている地域人材を活用した講話等と道徳教育のつながりを明確にすることができた。しかし、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答は減少しているため、今後、家庭や地域社会との交流を増やし、地域社会と一体となった道徳教育に関する取組みを推進していくことで「学校教育全体で行う道徳教育」をすすめ、道徳性や道徳的実践力を育む。
--

●評価委員からの主な意見

前年度の課題を踏まえ、家庭や地域社会と一体となった道徳教育に関する取組みの推進を行ったことについて評価する。 引き続き、児童生徒の道徳性の向上をめざした道徳教育に取り組まれない。
--

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	9	事業名	人権を尊重した教育	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室人権教育担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室人権教育担当

予算額	369	百万円	決算額	340	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	人間性豊かな児童生徒を育む	豊かな人権感覚をもって行動し、一人ひとりの価値観や性別・国籍・障がいなどの「多様性」を認め合うとともに、人を思いやり、一人ひとりの感性を大切に育む児童生徒を育む	①人権教育（性の多様性への理解等）、支援教育に係る教職員への研修 ②支援学級介助員(64人)、通常学級で支援を要する児童生徒への支援を行う支援員(8人)、学校看護師(12人)、学校看護師コーディネーター(1人)を配置。 ③語学指導員の派遣時間数を前年度より300時間増の1, 900時間に増加

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	国際社会に貢献する人材を育む	世界の人々と協働するため、国際社会への理解や英語力とコミュニケーション能力を高める教育に取り組む	④日本語指導が必要な児童生徒や外国人児童生徒に対する理解を広げ、深めるための在日外国人教育研修を年1回実施

●令和6年度の課題と改善策

②支援教育担当の教職員及び介助員等の入れ替わりが増えており、新たな担当者を中心としてスキルアップを図る必要がある。今後も、支援教育担当者に加え、介助員等を対象とした研修等を通じて育成を図っていく。
③日本語指導が必要な児童生徒はますます増加し、日本語未習得の状態で渡日する児童生徒も増えている。語学指導員の派遣や翻訳機の導入に加え、留学生等の人材の活用を検討していく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	9	事業名	人権を尊重した教育	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室人権教育担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室人権教育担当

●令和7年度の事業評価

「豊かな心」の育成	①人権教育実践交流会(年間3回)を実施し、経験年数の少ない教員の実践力の向上を図るとともに、認知機能強化研修(コグトレ)(年間5回)、支援教育コーディネーター研修(年間4回)、和泉市支援教育研修(年間3回)、通級指導担当者会(リーダー:4回、全体:9回)を通じ、支援を要する児童生徒への適切な支援及び対応について教員の資質向上を図った。また、吉川ヒロ氏を講師に招き、全校の管理職及び担当教員を対象に「多様な子どもたちを受け止める学校づくりをめざして」と題して性の多様性についての研修を実施し、教員の理解を深めることができた。(事後アンケート「その人の性はその人のものという言葉が心に残りました等」肯定的回答 98.3%) ②③支援学級介助員64人(R6:63人)、通常学級で支援を要する児童生徒への支援員8人(R6:8人)、学校看護師12人(R6:12人)、語学指導員20人(R6:20人)に加え、学校看護師コーディネーターを学校教育室に配置し、個別に支援、配慮を必要とする児童生徒に向け適切な支援を行った。
情報化・国際化社会で活躍する人材の育成	④日本語指導加配教員連絡会(年4回)を実施し、日本語指導が必要な児童生徒や外国人児童生徒に関する情報共有及び指導方法や計画の練り上げ、「ことばのものさし」の研究を行うとともに、巡回校で研修を実施する等、校内支援体制の構築を進めることができた。また、在日外国人教育研修(年1回)を実施し、日本語指導加配教員からの実践報告、事例検討を実施するなど、今後の進路指導の一助となるよう研修の充実に取り組んだ。

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的回答割合(小6)(目標値:88.0%)	87.0 (98.9%)	90.0 (102.3%)	91.5 (104.0%)	S
全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的回答割合(中3)(目標値:85.0%)	80.7 (94.9%)	85.0 (100.0%)	86.5 (101.8%)	S

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③④日本語指導が必要な児童生徒の多くが、日本語未習得の状態で渡日しているため、語学指導員の派遣時間を増加(R7:1,900時間→R8:2,200時間)し、翻訳機に加え、翻訳システムを導入する。また渡日初期に集中的に支援が行えるよう、教育センターにおける初期支援日本語指導を実施する。

●評価委員からの主な意見

支援を要する生徒に対しては、中学卒業後の生活を見据え、「合理的配慮の提供」について、しっかりと周知する必要がある。 また、昨今、日本語指導が必要な児童生徒が増えている状況に加え、保護者も日本語によるコミュニケーションが困難な場合が多々あることから、引き続き、学校への支援、対応の充実に取り組まれない。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	7	事業名	生徒指導・教育相談体制の充実	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室児童生徒支援担当

予算額	51	百万円	決算額	49	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	だれもが安心して過ごせる学校づくりの推進	いじめ、暴力行為、不登校などの未然防止や早期発見、早期対応に向けて必要な措置を講じるとともに、児童生徒が抱える課題の多様化に対応できる体制の構築に取り組む	①校内教育支援センターに不登校対策支援員会計年度任用職員を配置 ②スクールロイヤーの教育委員会事務局への配置拡充 ③スクールソーシャルワーカーの配置(会計年度任用職員)

●令和6年度の課題と改善策

③スクールソーシャルワーカーの人材確保と定着に課題があることから、スクールソーシャルワーカーを、これまでの他自治体と兼務する人材に代えて、週5日本市で勤務する会計年度任用職員として雇用する。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	7	事業名	生徒指導・教育相談体制の充実	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室児童生徒支援担当

●令和7年度の事業評価

「豊かな心」の育成	①不登校対策支援員を13校に配置することで、校内教育支援センターでの支援を充実させ、新規不登校者数の減少につながった。 ②スクールカウンセラーの配置（小学校：年間27回×6時間、中学校：年間35回×6時間）、スクールロイヤーの（年間96時間）配置により、専門家を活用した組織的なチーム対応の体制づくりが進み、多様化する学校の生徒指導課題に対応できるようになった。 ③スクールソーシャルワーカーを会計年度任用職員として配置したことにより、学校における困難事案に、即座に介入できるようになり、深刻化、長期化を防ぐことができるようになった。加えて、指揮命令系統が明確化し、学校の生徒指導課題に対する教育委員会としての支援をより適切に行うことができるようになった。
-----------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
新規不登校児童数（千人率）の減少（目標値 12.0）	9.7 (119.2%)	10.3 (116.5%)	7.3 (164.4%)	S
新規不登校生徒数（千人率）の減少（目標値 25.0）	28.0 (88.0%)	25.2 (99.2%)	24.8 (100.8%)	S
相談・指導等を受けていない不登校児童生徒数の減少（目標値 0人）	7 (98.7%)	0 (100.0%)	0 (100.0%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②多様化する学校の生徒指導課題への対応をさらに充実させるため、教育委員会事務局に配置する社会福祉士を増員する。 ③スクールソーシャルワーカーの人材不足に対応するため、週5日間勤務する会計年度任用職員の雇用を拡充する。
--

●評価委員からの主な意見

生徒指導課題への対応において、スクールロイヤー、スクールソーシャルワーカーといった外部の専門家を活用することは非常に有効である。 また、不登校対策についても、新規不登校者数の減少などの成果が表れていることから、引き続き、不登校対策支援員を活用した校内教育支援センターでの支援を充実されたい。

Ⅳ 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	10	事業名	我が町における子どもの育成	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室児童生徒支援担当

予算額	18	百万円	決算額	12	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
「豊かな心」の育成	規範意識と豊かな情操を培う	「いずみあいさつ運動」をはじめ、地域で子どもたちを温かく見守る人々との交流を促進する	①毎月11日の「いずみあいさつ運動」時に、校区のパトロールを実施、各校児童会や生徒会を中心に「あいさつ運動」実施の充実 ②全校で地域人材ボランティアを活用した、登下校時における児童生徒の見守り活動 ③「ふるさと元気寄附金」の活用による、のぼり旗等の作成、見守り活動推進

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
家庭・地域と連携した健全な子どもの育成	自ら進んで家庭で学習する児童生徒を育む	家庭・地域と連携し、基本的な生活習慣や社会的マナーを身につける教育に取り組む	④市内全10の地域教育協議会における、地域に根ざしたイベント（講演会、子育て教室、清掃活動など）と情報発信 ⑤学校支援地域本部事業での、地域ボランティアによる学校清掃や環境整備、部活動指導、学習活動支援
	地域とともに歩む学校づくりの推進	社会総がかりで子どもを育む環境を整える	⑥学校運営協議会の全校実施及び好事例の共有 ⑦学校運営協議会制度の充実について総合教育会議で議論 ⑧部活動の地域展開に向けた取組みの推進

●令和6年度の課題と改善策

④⑤地域教育協議会、学校支援地域本部の運営には、教職員が関わることも多く、学校教職員の働き方への配慮について継続的な検討が必要。学校運営協議会等を活用し、保護者や地域との合意形成を図りながら地域と学校の役割の明確化、学校支援活動の充実を図ることで改善を図る。
⑥⑦学校運営協議会での熟議を通し、学校運営や学校支援活動の充実、地域資源を活用した学校の諸課題の解決に繋げる必要がある。そのために、学校運営協議会へ教育委員会事務局による情報提供や活発な熟議に向けた助言等を継続的に行うことで改善を図る。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	10	事業名	我が町における子どもの育成	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室児童生徒支援担当

●令和7年度の事業評価

「豊かな心」の育成	①毎月11日の「いずみあいさつ運動」にあわせ、青色パトロールで巡回し、その啓発や周知を図った。 ②全校で児童生徒会、見守り隊によるあいさつ運動を実施し、地域との交流や豊かな心の育成を図った。 ③あいさつ運動の啓発用のぼり旗を各学校へ5枚ずつ配布し運動の活性化を図った。
家庭・地域と連携した健全な子どもの育成	④地域教育協議会や学校支援地域本部により、校区の実情に応じた取組みが実施され、子どもたちと地域のつながりを深めることができた。 ⑤⑥全学校に学校運営協議会を設置し、学校支援地域本部と連携しながら地域とともに歩む学校体制の構築を図ることができた。加えて、年度末に実施した学校運営協議会連絡協議会において、好事例を発信するとともに各学校の取組みを共有した。 ⑦学校運営協議会への理解を深めるため、総合教育会議において議論のうえ、コミュニティ・スクールガイドの作成に取り組んだ。併せて、「学校を支援したい事業者」と「事業者に支援してもらいたい学校」をつなぐため、総合教育会議において議論し、出前授業、社会見学、職場体験等が実施可能な和泉市内の事業者リストの作成に向けて取り組んだ。 ⑧中学生が将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保していくこと、学校における教職員の働き方改革を推進していくことをめざし、和泉市部活動地域展開推進計画を策定した。

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答割合(小6)(目標値:75.0%) (R4質問項目「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」)	67.8 (90.4%)	80.8 (107.7%)	78.2 (104.3%)	S
全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答割合(中3)(目標値:75.0%) (R4質問項目「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」)	55.9 (74.5%)	72.6 (96.8%)	68.9 (91.9%)	A

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	10	事業名	我が町における子どもの育成	担当課 (機構改革前)	教育・こども部学校教育室児童生徒支援担当
				担当課 (機構改革後)	教育部学校教育室児童生徒支援担当

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

④⑤地域教育協議会、学校支援地域本部の運営に、依然として教職員が関わることも多く、学校教職員の働き方への配慮について継続的な検討が必要。学校運営協議会の協議内容に業務量管理、健康確保措置の実施に関する内容を含めることで改善を図る。
 ⑥各学校の学校運営協議会において、進行の円滑化、論点整理の充実を図るため、校長等との事前打合せ、及び当日の進行等の役割を担う「コミュニティ・スクールファシリテーター」を配置する。
 ⑦「学校運営協議会」と廃止した「学校協議員」制度との違いや、「学校運営協議会」と「地域教育協議会」の違いなどについては、参加する保護者、地域団体の方に十分浸透できているとは言い難く、取組みを進めながら理解を深める必要があるため、コミュニティ・スクールガイドを活用し、広く周知することで改善を図る。また、「学校を支援したい事業者」と「事業者に支援してもらいたい学校」をつなぐため、出前授業、社会見学、職場体験等を実施可能な和泉市内の事業者リスト「いずみ未来サポーターズブック」を作成する。

●評価委員からの主な意見

地域とともに歩む学校づくりの推進のため、引き続き、学校運営協議会への理解促進、取組みの充実を進められたい。
 また、学校運営協議会制度の充実にあたっては、教職員の負担が増大しないよう配慮されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	22	事業名	美術館の運営	担当課	生涯学習部久保惣記念美術館
--------	----	-----	--------	-----	---------------

予算額	243	百万円	決算額	236	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	地域の歴史資源や文化資源の保全に努めるとともに、これら資源に触れ合う機会を創出し、市民の誇りと郷土愛を育む	久保惣記念美術館の施設や所蔵品を活かし美術に触れ合う機会・活動の場の創出に取り組む	①特別展をはじめ、5回の展覧会、音楽ホールでのコンサートや講演会を開催および茶室耐震補強工事(2期)にかかる実施設計策定 ②主に万博会場で働く外国人を対象としたモニターツアー事業の実施および2025大阪・関西万博の「LOCAL JAPAN」にて、枚方市・静岡県三島市・神奈川県箱根町と連携し、「古き良き、江戸時代へタイムスリップ」をテーマに出展し、当館所蔵の浮世絵を使った「浮世絵版画摺り体験」を実施し、本市の文化・魅力を発信。 ③和泉市久保惣記念美術館リニューアル基本構想の策定

●令和6年度の課題と改善策

①特別展及び中国書画展の入館者数が目標値の3～4割であった。SNSで年間349件発信するなど広報は強化したが、展覧会自体のコンセプト構築、見所(ハイライト)の選定、効果的なプロモーションの三位一体の戦略的な取組みが出来ていなかったため、結果に結び付かなかった。例えば、「ここで見られない」限定感を打ち出すなど、できることから戦略的に展覧会を企画できるよう体制の強化を図る。
②美術館運営ビジョンに基づき、美術館の長寿命化に併せて寄贈敷地の有効活用と収蔵品を活かした展覧会の開催に対応するリニューアル計画を進めるべく、令和7年度においては、和泉市久保惣記念美術館リニューアル基本構想およびリニューアル基本計画の策定に取り組み、来館者の増加を図る。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	22	事業名	美術館の運営	担当課	生涯学習部久保惣記念美術館
--------	----	-----	--------	-----	---------------

●令和7年度の事業評価

豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	①入館者は達成目標に及ばなかったが、前年度と比較すると約4,700名増となり、展覧会をはじめとした各事業に一定の成果があった。楠陰庵の耐震補強、外腰掛待合、内腰掛待合、中潜り、梅見門、西門、井筒など構築物の修理、西堀新設等、茶室耐震補強工事（2期）にかかる実施設計を策定。 ②美術館が従来の文化施設としての活動に加え、国際的・地域的な発信力を強化する取組みに挑戦した年となった。展覧会や文化イベントは地域との繋がりを深め、インバウンドモニターツアーやLOCAL JAPAN展（大阪・関西万博において、全国から集結した43自治体が地域の魅力発信）で国際的な文化交流と広報活動を実現した。 インバウンドモニターツアー：参加者27名、LOCAL JAPAN展：参加者650名 ③開館から40年が経過し、施設や設備の老朽化が著しく、収蔵品に影響を与えかねない状況であること、また所蔵品が13,000点と開館時の26倍となり、展示室や収蔵庫の狭隘化が問題となっている。これらの課題を解消すべく、開館50周年を迎える令和14年度に向け本施設のリニューアルを推進するため、リニューアル基本構想を策定した。本構想には、具体的な内容として、新館展示室及び収蔵庫の増築、多目的室の増築、バリアフリー対応、本館の改修を掲げている。
-----------------------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
展覧会（特別陳列・常設展・特別展 各1回）の入館者数(目標値：(R4)14,000人、(R5)22,000人、(R6)36,000人、(R7)50,000人) 最終目標(R14)70,000人	14,695 (66.8%)	20,744 (57.6%)	25,436 (50.9%)	D

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①現在、入館者の約7割が50代以上の方となっているため、入館者数が伸び悩んでいる要因の一つは、展覧会の企画内容について、より幅広い世代の関心を引きつける工夫に改善の余地があったものと考え。広報宣伝活動については、アナログ広告に加え、SNSで年間200回の発信、国内最大級のプレスリリース配信プラットフォームである「PR TIMES」による情報発信を新たに開始するなど、更なる強化を図った。

今後は、当館の美術品コレクションを最大限に活用しつつ、市民や新規来館者の興味をひくテーマ設定や関連イベントの充実など、魅力ある展覧会を企画するとともに、展覧会自体のコンセプト構築、見所（ハイライト）の選定、効果的なプロモーションの三位一体の戦略的な取組みができるよう体制の強化を図る。

茶室耐震補強工事（2期）は令和9年度に完了予定。工事中は来館者の安全を確保しながら日曜日の一般公開を継続。登録有形文化財である本茶室の保存と活用を図る。

③リニューアル基本構想にかかる概算費用を算出するため、令和7～8年度にかけてリニューアル基本計画を策定。予算規模によっては、事業の優先順位を決める必要がある。

●評価委員からの主な意見

従来の美術ファンだけでなく、多様な層に向けた多面的な取組みを行っていることについて評価する。今後も、来館者の属性や企画の好み等の分析をしっかりと行い、これまでの取組みの継続に加え、新しい取組みについても検討されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	21	事業名	文化財の調査研究・保護継承および文化財の活用	担当課	生涯学習部文化遺産活用課
--------	----	-----	------------------------	-----	--------------

予算額	305	百万円	決算額	275	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	地域の歴史資源や文化資源の保全に努めるとともに、これら資源に触れ合う機会を創出し、市民の誇りと郷土愛を育む	文化財の調査研究・保護継承に取り組む	①郷土史読本の普及・活用 ②史跡池上曽根遺跡整備工事 ③特定歴史公文書及び地域資料等の公開に向け「文書館機能」及びデジタルアーカイブシステムを構築
		史跡公園や歴史館など歴史学習の場の提供・活用に取り組む	④池上曽根史跡公園のリニューアルオープンに向けた活用手法の検討 ⑤歴史講座（和泉史塾や寺子屋いずみ）ウォークイベントなどを開催 ⑥いずみの国歴史館企画展（浮世絵の中のいきもの展）、信太の森ふるさと館企画展（戦後80年記念 軍隊と市民のくらしー信太地域と戦争ー）を開催

●令和6年度の課題と改善策

- ①郷土史読本を活用し、市民にPRすることで、「和泉市の歴史文化財に誇りを持っている」と答えた市民の割合の数値向上に取り組む。
- ②令和8年度の一部供用開始に向け、史跡池上曽根遺跡整備工事を推進する。
- ③「文書館機能」開設にむけた準備（特定歴史公文書の公開目録の作成、公開手続きに係る規則の制定、利用請求に対する処分に係る審査基準の制定等）を進める。
- ④池上曽根史跡公園について、令和8年度の一部供用開始に向け、活用方法を検討する。
- ⑤ヒストリータウン事業としてウォークイベントや歴史講座を実施する。
- ⑥文化遺産施設の入館者・入園者数について、増加をめざした取組みを検討する。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	21	事業名	文化財の調査研究・保護継承および文化財の活用	担当課	生涯学習部文化遺産活用課
--------	----	-----	------------------------	-----	--------------

●令和7年度の事業評価

豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	①市内小学校で郷土史読本を活用してもらうことにより、児童が歴史文化財の価値を学ぶ場を提供した。 ②令和5年度から整備工事を実施しており、令和7年度は多目的広場の整備工事等を実施した。 ③特定歴史公文書の公開目録の作成、公開手続きに係る規則の制定、利用請求に対する処分に係る審査基準の制定及びデジタルアーカイブシステムの構築を行うなど、令和8年4月から開始するいずみの国歴史館での「文書館機能」開設に向けた準備を進めた。 ④令和8年度の一部供用開始に向け、管理委託先である地元協会と定期的に活用方法を検討した（年12回） ⑤池上曽根史跡公園及び信太の森ふるさと館において、講座「寺子屋いずみ」（参加者数合計74名）を開催した。 ⑥久保惣記念美術館との連携事業として、いずみの国歴史館で令和7年度冬季企画展「浮世絵の中のいきもの展」（来館者数2,513名。スタンプラリー引替件数265件）を開催した。 ⑥信太の森ふるさと館で「戦後80年記念 軍隊と市民のくらしー信太地域と戦争ー」（来館者数456名）を開催した。
-----------------------------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
第5次和泉市総合計画の目標管理の市民アンケート調査における「和泉市の歴史文化に誇りを持っている」と答えた市民の割合(目標値：55.0%)	51.3 (93.3%)	54.7 (99.5%)	53.8 (97.8%)	A
文化遺産施設の入園者・入館者数(目標値：115,000人) (歴史館10,000人、池上曽根史跡公園100,000人、ふるさと館5,000人)	72,788 (63.3%)	68,631 (59.7%)	73,184 (63.6%)	C
文化財関係イベント(和泉史塾、寺子屋池上曽根など)の参加者数(目標値：500人)	580 (116.0%)	618 (123.6%)	535 (107.0%)	S
和泉市文化財TVおよびHPのPV数の増加(目標値：60,000回)	54,817 (91.4%)	50,162 (83.6%)	69,376 (115.6%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	21	事業名	文化財の調査研究・保護継承および文化財の活用	担当課	生涯学習部文化遺産活用課
--------	----	-----	------------------------	-----	--------------

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①郷土史読本や「和泉市の歴史」シリーズ、市制70周年記念誌などを活用し、市民にPRすることで、「和泉市の歴史文化財に誇りを持っている」と答えた市民の割合の数値向上に取り組む。
 ②令和13年度のリニューアルフルオープンに向け、史跡池上曽根遺跡整備工事を推進する。
 ③いずみの国歴史館に新設された「文書館機能」やデジタルアーカイブシステムについて、利用の促進を図る。
 ④池上曽根史跡公園について、令和8年度が史跡指定50周年、公園開園25周年となるため、地元協力会と連携し記念イベントを開催する。
 ⑤ヒストリータウン事業としてウォークイベントや歴史講座を実施する。
 ⑥文化遺産施設の入園者・入館者数は令和6年度と比較して増加しているものの、目標値に対する達成度が低い状況である。その一因として、魅力的なイベント等の不足があると考え。令和8年度は、池上曽根遺跡が史跡指定50周年であり、池上曽根史跡公園で記念イベントを開催するほか、いずみの国歴史館において、特別展・企画展として「文書館オープン記念、和泉市制70周年記念、池上曽根遺跡史跡指定50周年記念」を開催し、入館者の増加をめざす。また、その他の文化遺産施設についても、入園者・入館者数の増加をめざした取組みを検討する。

●評価委員からの主な意見

インバウンド需要を把握し、外国語版のHPにより市の文化財をアピールした取組みについて評価する。引き続き、情報発信の多言語化に努められたい。
 また、文化遺産施設や文化財のPRについては、地域活性化の観点も含め、美術館など他施設とのタイアップやインフルエンサーの活用などの取組みについても検討されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	25	事業名	青少年センター活動	担当課	生涯学習部生涯学習推進室青少年センター
--------	----	-----	-----------	-----	---------------------

予算額	30	百万円	決算額	28	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
将来を担う青少年の育成	健やかな青少年の育成	子ども同士の交流ができる活動の場の提供に取り組む	①ユースゼネレーション(小中学生対象の講習講座や野外活動)の開催 ②どろんこ子ども会を平日放課後、学校長期休業中開設(土日祝等除く) ③(仮称)多世代交流拠点施設における青少年健全育成機能を検討

●令和6年度の課題と改善策

- ①各講習講座については、引き続きアンケート調査を実施し、利用者ニーズの把握に努めるとともに、青少年の健全育成や子どもの居場所づくり等を踏まえた個別事業の見直しに取り組んでいく必要がある。
- ③(仮称)多世代交流拠点施設基本計画等に基づき、当該拠点施設における青少年健全育成機能について、関係課とともに検討を進めていく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	25	事業名	青少年センター活動	担当課	生涯学習部生涯学習推進室青少年センター
--------	----	-----	-----------	-----	---------------------

●令和7年度の事業評価

将来を担う青少年の育成	①ユースゼネレーションは、定員を上回る応募があり(延べ参加者数821人)、利用者ニーズに配慮した講習講座を実施することで、青少年の体験や交流の場を提供することができた。 ②どろんこ子ども会(延べ参加者数5,891人)では、学校の放課後や長期休みにおける安全、安心な居場所を提供することで、集団活動や遊びを通じて子どもたちの交流を図ることができた。 ③(仮称)多世代交流拠点施設のDB事業者が決定され、今後も引き続き関係課と協議・調整を行っていく。また、当施設にて実施するソフト事業についても、人権文化センターと引続き協議・調整していく。
-------------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
青少年センターで実施する各種講習講座(ユースゼネレーション、ふれあいサタデー等)の参加率(目標値:100%)	86.6 (86.6%)	85.3 (85.3%)	83.2 (83.2%)	B

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①各講習講座について、引続きアンケート調査を実施し、利用者ニーズの把握に努める。また、(仮称)多世代交流拠点施設への移転に向け、より多くの方々に各講習講座および新しい施設の認識を高めるべく、市内公共施設での実施を拡大していく。 ②令和9年度(仮称)富秋学園の開校による、どろんこ子ども会の留守家庭児童会機能移転後、当センターにおいて実施する子どもの居場所づくり機能の検討を進めていく。
--

●評価委員からの主な意見

利用者ニーズの調査にあたっては、属性変化等も把握のうえ、ニーズに対応した事業の充実を図られたい。 また、どろんこ子ども会の居場所づくり機能については、(仮称)富秋学園開校後においても変わりなく利用していただけるよう、しっかりと内容検討を進められたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	23	事業名	青少年の健全育成	担当課 (機構改革前)	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室地域教育推進担当

予算額	6	百万円	決算額	5	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
将来を担う青少年の育成	健やかな青少年の育成	社会環境が及ぼす青少年への影響配慮や地域による見守りなどに取り組む	①こども会育成連絡協議会の活動支援 ②青少年の非行・被害防止に係る啓発チラシを作成し、町会・自治会での回覧・掲示、市内公共施設での配架、いずみメールでの配信等を実施し、啓発活動を行う。 ③青少年指導員協議会や地域における情報共有、合同巡回の実施支援 ④こども110番事業

●令和6年度の課題と改善策

②スマートフォンやSNSの利用を通じて犯罪に巻き込まれるケースや薬物乱用などが社会問題化する中、引き続き、少年の非行・被害防止に係る啓発活動に取り組んでいく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	23	事業名	青少年の健全育成	担当課 (機構改革前)	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室地域教育推進担当

●令和7年度の事業評価

将来を担う青少年の育成	①こども会育成連絡協議会の活動を促すため補助金を交付し、ドッチビー、オセロ大会、スポーツ大会の開催による地域に根ざした子どもの健全育成を支援することができた。 ②少年の非行・被害防止（大麻、SNS、飲酒喫煙、課金トラブル）に係る啓発チラシを作成し、町会・自治会での回覧・掲示、市内公共施設での配架、いずみメールでの配信等を実施し、啓発活動を行った。 ④地域の子どもは地域で守り、子どもが安心して暮らせる環境を確保することを目的として、「こども110番」の旗を掲げていただく協力世帯を募るため、広報いずみやホームページで新規協力世帯を募集し、損傷の激しい旗を随時入れ替えた。令和7年度は68件の新規協力世帯の登録があり、古くなった529本の旗を入れ替えることができた。
-------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
こども110番事業における子ども1人あたりの協力家庭件数(目標値:0.22世帯)	-	0.22 (100.0%)	0.25 (113.6%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

②最新の少年の非行・被害状況を踏まえたテーマを設定した上で、啓発チラシを作成し、町会・自治会での回覧・掲示、市内公共施設での配架、いずみメールでの配信等を実施し、啓発活動を行う。

●評価委員からの主な意見

こども会育成連絡協議会の活動は、市全体の活動の状況把握、情報交換、活動活性化につながることから、加盟団体増加への働きかけが望まれる。
--

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	24	事業名	放課後等の児童の健全育成	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保育成担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室地域教育推進担当

予算額	1,093	百万円	決算額	949	百万円
-----	-------	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
将来を担う青少年の育成	健やかな青少年の育成	安全・安心して過ごせる児童の放課後活動の場の提供や次世代育成の観点による放課後活動対策に取り組む	①榎尾学園留守家庭児童会の運営を民間事業者へ委託 ②留守家庭児童会において必要な教室数及び支援員確保 ③放課後子ども教室の全ての小学校区での実施を継続、実行委員会形式で実施できる校区の増加

●令和6年度の課題と改善策

①留守家庭児童会の安定運営のために民間委託の拡充等を検討していく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	24	事業名	放課後等の児童の健全育成	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保育成担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室地域教育推進担当

●令和7年度の事業評価

将来を担う青少年の育成	①令和7年4月より民間事業者が運営を行っており、日々の運営については、直営でも起こりうるような児童同士のトラブルなどは発生しているが、大きな問題は発生していない。水遊びや室内ドッジボール、新聞紙を利用した工作、おやつバイキングなど、子ども達を楽しませる取組みも行っており、問題なく運営できている。 ②学校児童推計を基に算出した留守家庭児童会入会児童数推計に基づき、適切なクラス数の設定ができたことにより、待機児童が発生することなく運営することができた。 ③放課後子ども教室は、実行委員会を実施する校区が1校区減少し12校区となったが、PR活動により、R8年度に新たに1校区が参加を予定している。また、実行委員会がない校区では、市主体で3校で実施することができた。
-------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
留守家庭児童会の待機児童数(目標値：0人)	0 (100.0%)	0 (100.0%)	0 (100.0%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①現状、大きなトラブルは発生していないが、引き続き運営事業者と情報共有をし、安全安心な運営をおこなってもらう。 ②留守家庭児童会支援員の人材不足への対応として、民間委託(R9より（仮称）富秋学園・信太小・鶴山台北小・鶴山台南小を予定)や人材派遣など民間事業者を活用する。 ③実行委員会を実施する校区数が伸び悩んでいるため、市主体でも実施する。また、地域や保護者に対し、放課後子ども教室活動のPRを行う。また、新たな取組みとして放課後等に学校施設を拠点に安全・安心に過ごせる子どもの居場所づくりの設置について検討する。 ※予算額と決算額の差異（144百万円）の主な要因は、南松尾はつが野学園留守家庭児童会室増築工事の落札減額のため。

●評価委員からの主な意見

留守家庭児童会の運営において、支援員の役割は重要である。今後も研修体制の充実を継続されたい。 また、配慮を要する子どもについては、学校との情報共有、相談などの連携体制を確保されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	18	事業名	スポーツ施設の運営	担当課	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当
--------	----	-----	-----------	-----	----------------------

予算額	263	百万円	決算額	259	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	誰もが身近な場所でスポーツに親しみ、生きがいや健康を育む	スポーツを行う環境を整える	①（仮称）北部総合スポーツ公園基本構想策定 ②スポーツ施設の営繕・改修等の実施（市民体育館駐車場再整備工事、コミュニティ体育館第1駐車場陥没復旧工事、いぶき野小学校運動場照明設備改修） ③指定管理者と協議のもと、稼働率向上に向けた取組み

●令和6年度の課題と改善策

- ①（仮称）北部総合スポーツ公園基本構想策定において、多くの市民利用につながる施設整備を検討する。
- ②社会体育施設の老朽化に対して、市民が気持ちよく運動できるようスポーツ施設の営繕、改修を計画的に実施する。
- ③稼働率向上につながる新たな魅力作りについて指定管理者と協議検討する。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	18	事業名	スポーツ施設の運営	担当課	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当
--------	----	-----	-----------	-----	----------------------

●令和7年度の事業評価

スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	①令和6年度より継続して実施していた（仮称）北部総合スポーツ公園基本構想について、昨年10月にパブリックコメントを実施し、令和8年3月に策定。基本コンセプトを「“人と人”、“人と自然”がつながる、スポーツとふれあいの拠点」とし、スポーツゾーンや広場ゾーンなどを設定し、令和16年度の施設オープンをめざす。 ②スポーツ施設の営繕・改修等の実施（市民体育館駐車場再整備工事（～令和9年2月予定）、コミュニティ体育館第1駐車場陥没復旧工事、いぶき野小学校運動場照明設備改修）を行い、利用者の利便性向上につながった。 ③温水プールでは、新たに体験教室の実施を行った。また、適正な施設管理により、故障による休館期間がなかった。体育施設においては、利用者数の増加を目的に、スポッ Tucker の増設に加え、コミュニティ体育館体育施設の保守点検や緑地運動場のトイレの排水不良についてカメラ調査を実施するなど、安全管理や満足度向上のための予防的対策を行った。
-----------------------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
社会体育施設の利用者数 (目標値：前年度比1万人増 R5:472,921人 R6:468,123人 R7:499,852人)	458,123 (96.9%)	489,852 (104.6%)	512,484 (102.5%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①（仮称）北部総合スポーツ公園基本構想に基づき、基本計画において、多くの市民利用につながる施設整備計画を検討する。 ②社会体育施設の老朽化に対して、市民が気持ちよく運動できるよう光明池球技場テニスコート人工芝の張替え工事や、市民体育館への空調導入に係る設計の実施など施設の営繕、改修を計画的に実施する。また、総合スポーツセンターのリニューアルとして、多目的グラウンドの人工芝張替えや管理棟屋上の観覧スペースの充実に向けた設計を実施する。 ③新たな教室や体験会の実施など稼働率向上につながる新たな魅力作りについて指定管理者と協議検討する。

●評価委員からの主な意見

社会体育施設の利用者数が増加していることについては、営繕、改修等に取り組んだ結果でもあり、評価する。引き続き、稼働率向上に向けた取組みを進められたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	19	事業名	スポーツ活動の普及	担当課 (機構改革前)	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当、 地域教育推進担当

予算額	48	百万円	決算額	42	百万円	※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、 その理由を「●課題と改善策」の欄に記載
-----	----	-----	-----	----	-----	--

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	スポーツを通じて地域の仲間たちと親交を深める	スポーツ活動の仕組みづくりに取り組む	①各種イベントにおける参加者増加に向けた取組みの検討 ②和泉市部活動地域展開推進計画の策定 ③学校開放システム構築の委託

●令和6年度の課題と改善策

①信太山クロスカントリー大会の参加者増加が課題であり、ふるさと納税による出場権付与の周知および大会の魅力向上を図る。
①ニュースポーツ教室の1回当たりの参加者数は、令和5年度（15人/回）から令和6年度（19人/回）と増加しているが、定員（50人）に達していないため、周知方法や内容を充実していく。
②部活動指導員の充実や質の担保、合同部活動や拠点校部活動の実施、大学との連携など、部活動が実施しやすい環境の確保に向け、部活動地域移行計画策定委員会の中で議論していく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	19	事業名	スポーツ活動の普及	担当課 (機構改革前)	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当、 地域教育推進担当

●令和7年度の事業評価

スポーツ交流による「人・地域」の親交の醸成	①信太山クロスカントリー大会では、出場権をふるさと納税の返礼品として周知し、18人がエントリーを行った。 ①ニュースポーツ教室について、参加者の増加及び満足度の向上を図る目的で、新年度の内容変更を議論した。令和8年度は、みんなで楽しむ種目の体験と個人で点数を競う種目を組み合わせた「レッツエンジョイ！ニュースポーツ！！」を開催予定。 ②部活動地域移行計画策定委員会からの答申を受け、部活動地域展開推進計画を策定し、本市の方向性として、「1. 部活動指導員の充実」「2. 合同部活動や拠点校部活動の実施」「3. 大学との連携」を3つの柱として設定した。具体的な運用にあたっては実現性・継続性にも十分考慮し、本市の実態にあった運用を検討する。 ③団体情報や利用申請をオンラインで行えるシステムの構築を行い、令和8年度から運用を開始予定。オンライン上での予約が可能となり、併せてパスワードでキーボックスを開錠するスマートロックを導入することで利用者の利便性の向上を図った。
-----------------------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
スポーツ事業参加者数対前年度比(目標値：1以上)	1.49 総数:2,796 (149.0%)	1.03 総数:2,893 (103.0%)	1.23 総数:3,551 (123.0%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①信太山クロスカントリー大会参加者増加のため、SNSを活用し、マラソンランナーやトレイルランナーへの広告などターゲットを絞った効果的な情報発信を行う。 ②令和8年2月に策定した部活動地域展開推進計画をベースに、指導者の質の確保や子どもたちの想いに沿った部活動の展開を実施できるよう、具体的な運用検討を進める。 ③システムの導入により、紙媒体でのやりとりを不要にすることで、学校及び団体の負担軽減を図る。また、利用状況の可視化による効率的な施設の活用を図る。導入初年度は、学校・団体からの問い合わせが多いと思われるが、内容を集約し対応を整理する。

●評価委員からの主な意見

信太山クロスカントリー大会をはじめとした、スポーツ事業参加者数の増加に向けた取組み検討を推進されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	26	事業名	図書館の運営および子どもの読書推進	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	-------------------	-----	--------------------

予算額	348	百万円	決算見込額	348	百万円
-----	-----	-----	-------	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
生涯における読書振興	生涯を通じた学習の一翼を担う読書の振興	図書の提供だけでなく調査・探究を手助けする情報拠点として、図書館の管理・運営に取り組む	①2館2室の指定管理者による管理運営 ②電子図書館の周知拡大 ③公共施設を活用した自習室の開設
		子どもたちが読書を通じ生きる力を育めるよう、子どもの頃から読書に親しめる環境づくりに取り組む	④ブックスタート事業・学校配送・講座や講演会等などの継続 ⑤和泉市子どもの読書活動推進協議会の開催 ⑥図書館を使った調べる学習コンクール・小学生読書おたよりコンクール・中学生POPコンクール ⑦18歳以下の子どもへの「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)の無料配付並びに周知拡大 ⑧市内小学校新1年生への図書館カード配付 ⑨学校図書館・市立図書館のシステム連携に向けて検討継続

●令和6年度の課題と改善策

①②引き続き、魅力的な講演会やワークショップを開催し、図書館の利用促進を図るとともに、出前講座において、電子図書館の周知に積極的に取り組む。
⑨今後開校予定の小中一貫校における学校図書館の電算化だけでなく、学校図書館と市立図書館の統一システムによる連携の導入に向けて関係部局との連携が必要である。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	26	事業名	図書館の運営および子どもの読書推進	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	-------------------	-----	--------------------

●令和7年度の事業評価

生涯における読書振興	①指定管理者が持つノウハウを生かし、図書館事業の充実に努めた。また、講演会やワークショップ開催により、読書の振興と図書館利用促進を図ることができた。 ②電子図書館の周知を図るため、今年度、出前講座メニューに「電子図書館の使い方」を追加し、市内小学校へ出向いて講座を実施した。また、指定管理者の自主事業として、桃山学院大学で電子図書館出張体験会を開催し、電子図書館の利用促進を図った。 ③ホームページを活用し、市内自習室の周知に努め、56,933人(R6:55,017人)の利用があった。また、利用者アンケートを実施し、椅子の交換など、利用環境の改善を図った。 ④令和7年8月22日に和泉市子どもの読書活動推進協議会を開催し、活発な意見交換や事業提案がなされた。 ⑤「図書館を使った調べる学習コンクール」に63点(R6:101点)の応募があり、全国コンクールに進んだ受賞作品のうち、1作品が優良賞、1作品が佳作を受賞した。小学生読書おたよりコンクールは、低学年の部に430点(R6:44点)、高学年の部に387点(R6:124点)、中学生POPコンクールに191点(R6:185点)の応募があり、コンクールを通じた読書啓発を行うことができた。 ⑥こどもの図書館利用や電子図書利用を促すため、令和3年度に市内小・中学生の図書館カード未所持者に図書館カードを配付し、令和4年度以降は、市内小学新1年生の図書館カード未所持者を対象に配布しており、令和7年度は、831名(R6:890名)に配布することができた。
------------	---

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
市立図書館入館者数(目標数値：869,000人)	659,398 (75.9%)	671,213 (77.2%)	662,806 (76.3%)	D
こども1人当たりの市立図書館貸出冊数(目標数値：10冊)	8.1 (81.0%)	8.1 (81.0%)	8.3 (83.0%)	B

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

⑨令和9年4月の（仮称）富秋学園開校に向け、図書室の地域開放にかかる準備を進める。 「市立図書館入館者数」については、人口減少、高齢者の来館機会の減少・読書離れ、定年延長による余暇時間の減少、電子書籍の普及、共働き世帯の増加による来館時間の制約などにより減少したものと想定されるが、引き続き、読書への興味・関心を高める配架や蔵書の充実に努める。「こども1人当たりの市立図書館貸出冊数」については、前年度より向上しており、作家による講演やこども向けの読書イベントなどの開催により、こどもの読書活動推進を図る。

●評価委員からの主な意見

市立図書館入館者数の増加に向けた取組みについて、大学生をターゲットにした事業を実施する際は、併せて、図書館の学習スペースを拡大するなど、ターゲットのニーズに応じた事業検討を行うことが、より効果的となる。
--

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	27	事業名	国際交流	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	------	-----	--------------------

予算額	19	百万円	決算額	10	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
国際交流の推進	多様な価値観を学び認め合う国際交流の推進	国籍や文化の違いを超えて、互いを尊重し、ともに活躍できるグローバル人材育成のため、国際交流の推進に取り組む	①姉妹都市である米国・ブルーミントン市との交換学生相互派遣事業において、交換学生を派遣 ②姉妹都市である米国・ブルーミントン市とのマラソンランナー相互派遣事業において、ランナーを相互に派遣 ③米国・ブルーミントン市、中国・南通市、台湾との文化交流として、絵画の交換による絵画展を開催 ④友好都市である中国・江蘇省南通市から代表団を受入れ、万博でコラボステージを実施

●令和6年度の課題と改善策

①令和7年度は市内中学生10人を姉妹都市である米国ブルーミントン市へ派遣予定であるが、派遣事業終了後も、交換学生に継続的に市の国際交流事業に関わっていただくための仕組みの検討が必要である。
④2025大阪・関西万博での南通市文化芸術集団といずみ太鼓鼓聖泉のコラボステージ実現のほか、幅広い方々に文化交流を行っていただけるよう、万博のみならず、和泉市内でのコラボステージ実施に向け、南通市と引き続き、協議・調整を行っていく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	27	事業名	国際交流	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	------	-----	--------------------

●令和7年度の事業評価

国際交流の推進	①令和7年8月7日から17日まで、姉妹都市である米国ブルーミントン市に交換学生10人、引率者2人を派遣し、市内公共施設の見学、ホストファミリーや姉妹都市委員会との交流を行った。 ②令和7年10月2日から9日まで、姉妹都市である米国ブルーミントン市にランナー2人を派遣し、ツインシティマラソンに出場したほか、市内公共施設の見学や高校訪問、ホストファミリーや姉妹都市委員会との交流を行った。また、令和8年2月5日から10日まで、姉妹都市である米国ブルーミントン市からランナー2人を受け入れ、KIX泉州国際マラソンに出場したほか、市内公共施設の見学や体験、市内小中学生との交流を実施した。 ④友好都市である中国・江蘇省南通市の文芸集団である南通芸術劇院を受入れ、万博のステージでいずみ太鼓鼓聖泉とのコラボステージを実現したほか、和泉シティプラザ弥生の風ホールにて、南通芸術劇院、鼓聖泉や市内中学生吹奏楽部などが出演する和泉市民還元音楽祭を開催した。
---------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
「日本と世界の子どもの作品展」市内出展作品数(目標数値：70点)	60 (85.7%)	98 (140.0%)	126 (180.0%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①令和8年度は、姉妹都市である米国ブルーミントン市から10名の学生を受け入れる予定であるが、過去の派遣事業参加者に継続的に国際交流事業に関わっていただくため、学生受入れ時のプログラムに過去の派遣事業参加者が参加可能なメニューを組み込む。
--

●評価委員からの主な意見

ブルーミントン市への交換学生派遣事業については、選考方法を変更したことで、英語力だけでなく、意欲の高さなど、多様な学生が参加できたことを評価する。選考方法を変更したことによる効果や課題もしっかりと分析し、今後の取組みにつなげられたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	16	事業名	生涯学習環境づくり	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	-----------	-----	--------------------

予算額	1347	百万円	決算額	371	百万円
-----	------	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
生涯を通じた「学習活動」の促進	一人ひとりが、生涯にわたり生きがいをもって豊かな人生を歩む	必要なときに必要な学びを提供できる環境整備に努める	①コミュニティセンター、生涯学習センター、生涯学習サポート館、青少年の家、槇尾山森林浴コースの指定管理者による管理運営 ②出前講座 ③日本語学習機会の場として、日本語サロン、和泉読み書き教室、いずみ識字学級を設置 ④青少年の家について、令和9年4月のリニューアルオープンをめざし、改修工事に着手する
	学習の成果を生かして活躍することができる場の提供と、地域に貢献する人材の育成、さまざまな交流やコミュニティの創出	学習の成果をいかして活動できる場の提供に取り組む	⑤いずみ市民大学において、市民ニーズに応じた講座提供を行うことにより、多様な人材を確保し市民相互のネットワークを拡大 ⑥生涯学習人材データベースへの登録促進

●令和6年度の課題と改善策

④令和9年4月のリニューアルオープンをめざし、改修工事、新指定管理者の選定、施設の利用規定や運営方法の見直しなどに取り組む。
⑤魅力的な講座内容を検討し、前年度を上回る受講者の確保に努める。また、令和7年度で開講10周年を迎えることから、歴代の卒業生による発表会を開催する。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	16	事業名	生涯学習環境づくり	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	-----------	-----	--------------------

●令和7年度の事業評価

生涯を通じた「学習活動」の促進	①生涯学習サポート館について、当施設がこれまで担ってきた生涯学習センターの補完施設としての役割は一定果たし終えたこと、スポーツ施設としての役割についても周辺の体育施設等で利用需要を賄えることから、次期指定管理期間の満了（令和12年度）をもって事業廃止することとした。 ③日本語学習機会の場として設置している日本語サロン【フチュール和泉、和泉シティプラザ】53人（R6:65人）、和泉読み書き教室【和泉市コミュニティセンター】8人（R6:8人）、いずみ識字学級【和泉市立北部総合福祉会館、旭第二団地集会所、和泉市立人権文化センター】20人（R6:16人）の受講があった。 ④青少年の家について、令和9年4月のリニューアルオープンをめざし、改修工事に着手した。 ⑤いずみ市民大学について、まちづくり本科、まちづくりスキルアップ学科、観光おもてなし学科の3コースを設定し、30人の受講があった。まちづくり本科では、日本ボランティアコーディネーター協会認定講師を講師に迎え、「ボランティアコーディネーション力3級検定試験」の受講資格が得られる計4回のボランティアコーディネーション3級検定対策講座を組み入れ、地域活動の即戦力として活躍いただける人材の育成に取り組むとともに、市民大学開講10周年を記念し、卒業式において、歴代卒業生によるまちづくり活動にかかる取り組みの発表を行った。教養学部では、「不思議の国・西洋古代・中世の国家」に関する講座の人気の高く、前期と後期合わせて12講座開催し、613人の受講があった。（R6：12講座・727人受講）
-----------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
いずみ市民大学受講者数(目標値：700人)	566 (80.9%)	751 (107.3%)	643 (91.9%)	A

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

④令和9年4月のリニューアルオープンをめざし、改修工事に取り組むとともに、指定管理者と協議の上、利用者を増加させるための魅力的な運用方法を決定する。 ⑤教養学部については、講座数に変更はないものの、受講者数が114名減少する結果となった。令和6年度に実施した「ピアノ名曲探訪～生演奏でつづる」が、例年特に人気の講座であることが要因であると考えられるため、同講座をメニューに追加できるよう検討する。また、開講10周年を迎えたいずみ市民大学について、名称や内容をリニューアルし、参加者が利用しやすい内容とする。 ※予算額と決算額の差異（976百万円）の主な要因は、青少年の家改修工事費について、市の財政負担にとってより条件の良い（より多くの交付税を受けることができる）令和7年度補正予算による国の交付金を受けるべく、本工事費を令和7年度補正予算に計上のうえ、全額を繰越明許費として令和8年度に繰り越すこととなったため。
--

●評価委員からの主な意見

近年、全国的に外国人住民が増加している状況にあることから、日本語学習機会の提供と併せ、その他の支援、対応についても、部署間連携をしながら、取り組まれない。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	17	事業名	社会教育環境づくり	担当課 (機構改革前)	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当、 地域教育推進担当

予算額	4	百万円	決算額	4	百万円
-----	---	-----	-----	---	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
生涯を通じた「学習活動」の促進	学習の成果を生かして活躍することができる場の提供と、地域に貢献する人材の育成、さまざまな交流やコミュニティの創出	多様化する時代に即した地域社会、コミュニティの形成がなされる環境づくりに取り組む	①社会教育委員会議の開催 ②PTA協議会活動の支援 ③はたちのつどいの運営支援(はたちのつどい企画委員との連携)

●令和6年度の課題と改善策

③はたちのつどいについて、会場敷地内での飲酒等の課題があるため、引き続き、実行委員会による飲酒禁止の呼びかけや飲酒禁止の周知に取り組む。また、参加者数の減少に伴い、効率的かつ適正な規模での運営を行うため、4部制から3部制開催への見直しを行う。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	17	事業名	社会教育環境づくり	担当課 (機構改革前)	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
				担当課 (機構改革後)	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当、 地域教育推進担当

●令和7年度の事業評価

生涯を通じた「学習活動」の促進	①令和8年3月に社会教育委員会議を開催し、市の社会教育施策に関する意見聴取を行い、生涯学習ポータルサイトまNAVIの充実に 関する助言をいただいた。 ②PTA協議会の自主的な活動を促すため補助金を交付し、研究大会の開催を通じた各学校PTAの横の連携強化や家庭教育への学びを 深める機会の創出を支援した。 ③令和8年1月12日に、はたちのつどいを3部制で開催し、1,496人（参加率：77.6％）が参加した。（R6：1,488人、参加率 74.7％）また、会場内での飲酒を控えるよう、企画委員による周知徹底に努めた。
-----------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
はたちのつどい参加率(目標値：75%)	77.0 (102.7%)	74.7 (99.6%)	77.6 (103.5%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③はたちのつどいについて、会場敷地内での飲酒等の課題があるため、引き続き、実行委員会による飲酒禁止の呼びかけや飲酒禁止の周知に取り組むとともに、令和7年度に引き続き、3部制での開催とする。
--

●評価委員からの主な意見

各学校間の情報共有、連携を支援する観点から、PTA協議会活動の支援にかかる取組みを進められたい。 また、はたちのつどいについては、飲酒等の継続した課題はあるが、青年を祝い励ます行事であることから、引き続き課題に対応しながら取り組まれたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	20	事業名	文化芸術活動	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	--------	-----	--------------------

予算額	41	百万円	決算額	40	百万円
-----	----	-----	-----	----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	市民生活を心豊かで、潤いあるものとする	市民の創造性豊かな文化・芸術活動を支援する	①市民文化祭において、幅広い分野の受け入れを行う。また、文化協会の協力を得て、市民が身近に文化を感じられるよう、体験教室を開催。市民文化祭の一般参加(文化協会非会員)について、幅広い層に参加していただけるよう、募集を行う。 ②太鼓教室や太鼓体験教室の開催や活動支援によるいずみ太鼓の振興 ③文化芸術の振興発展・文化芸術活動の活性化を目的として文化協会と連携し、各種イベント開催時や学校・園等で様々な文化を体験できる機会を提供

●令和6年度の課題と改善策

③引き続き、文化芸術の振興発展のため文化協会と連携し、今後も様々な機会を通じて市民が文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、文化協会と学校・幼稚園・保育所等との連携により、次代を担う子どもたちに対して様々な文化体験の機会を提供する必要がある。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	20	事業名	文化芸術活動	担当課	生涯学習部生涯学習推進室生涯学習担当
--------	----	-----	--------	-----	--------------------

●令和7年度の事業評価

豊かな創造性と郷土愛を育む 「文化・芸術」の振興	①令和7年10月5日～12月21日に市民文化祭を開催し、展示部門第1期～第2期は11,820人、演技部門は4,156人が来場され、身近な場所で文化・芸術に触れていただくことができました。また、今年度は、11月3日の式典と同日で市民ステージ（一般参加者のステージ）を開催したほか、展示部門については、文化協会と一般参加の方の作品展示を同時に行い、多くの方に来場いただくことができました。 ②太鼓教室や太鼓体験教室を開催し、日頃の練習の成果を披露する場として、令和7年12月6日・7日に2部制で「いずみの国太鼓クリエーション2025」を開催し、計1,031名が来場された。 ③地域の夏祭りに吹奏楽部門が出演したほか、小・中学校で、ちぎり絵部門、書道部門が各体験イベントを行うなど、多くの市民に文化・芸術に触れる機会を提供することができた。
-----------------------------	--

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
市民文化祭に参加している市民の延べ人数(目標値：10,500人)	12,375 (117.9%)	13,751 (131.0%)	15,976 (152.2%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

③引き続き、式典と同日で市民ステージを開催することや、文化協会と一般参加の方の作品展示を同時に行うなどの工夫を行い、来場者の増加をめざす。

●評価委員からの主な意見

市民文化祭については、文化芸術活動の活性化だけでなく地域の活性化にもつながる行事であることから、引き続き、取組みを推進されたい。
--

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	1	事業名	公立保育所・公立幼稚園の運営	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保育成担当 学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保育成担当 教育部学校教育室教育推進担当

予算額	656	百万円	決算額	621	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
「生きる力の基礎」の育成	学習の芽生えを育む	健やかな成長を促すためのさまざまな活動を通して、好奇心や探求心を養う	①絵本の読み聞かせなどの情操教育 ②自然に親しむ園外活動などの体験学習 ③野菜の栽培などの菜園活動、食事の手伝いやクッキングなどの食育
	社会生活における望ましい習慣や態度を養う	発達段階に即した指導を行う	④あいさつ運動 ⑤災害訓練・消火訓練・不審者対処避難訓練 ⑥手洗い、歯磨き指導
	人と関わる力を養うとともに、身近な人への愛情・信頼感を深める	集団生活の中で友だちや先生との交流を行う	⑦国際理解教育の推進 ⑧自己肯定感を育てる保育

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
「切れ目のない保育・教育」の実現	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校相互の保育・教育内容の理解を深める	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との交流・連携を図る	⑨保育士・幼稚園教員と小学校教員の合同研修並びに架け橋期プログラムの推進 ⑩小学校教員による半日保育体験 ⑪幼稚園・保育園、認定こども園の職員による小学校公開授業見学
	安心して小学校に就学する	就学前教育を終了した子どもたちが、安心して小学校に就学できる環境を整える	⑫小学校授業見学や交流 ⑬地域教育協議会への市内全園参加 ⑭他園(小学校区内)との交流
	支援体制を確保する	障がいや発達状況に配慮した支援の充実を図る	⑮巡回相談を行い助言、加配職員の配置

Ⅳ 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	1	事業名	公立保育所・公立幼稚園の運営	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保育成担当 学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保育成担当 教育部学校教育室教育推進担当

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
家庭・地域の「子育て力」の向上	子育ての孤立化や不安の解消	子育て家庭のサポート体制の充実を図る	⑩育児教室・園庭開放(在宅児)
	学習機会の提供	発達段階に応じた家庭教育について学習する機会を提供する	⑪子育て支援室等関係機関と連携し学習会等の案内
	子育て環境の整備	家庭、地域等との連携により、社会総がかりで育てる環境を整える	⑫関係機関と連携し、子育てに関する情報提供

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
需要と供給のバランスのとれた公立園及び民間園の提供	待機児童の解消	公立園と民間園が連携し、待機児童の解消に取り組む	⑬任期付職員・会計年度職員の採用

●令和6年度の課題と改善策

⑨⑩⑪架け橋プログラムに関する理解や担当者の交流が一定は進んでいるものの、校区や地域がさらに相互理解を深めるために幼稚園、保育園、認定こども園、小学校との合同研修会や意見交換の場を設け情報提供に努めていく。「架け橋期」においては、幼稚園、保育園、認定こども園、小学校が意識的に協働し、幼児期の遊びを通した学びと小学校の学びをつなぐため、接続、連携を進めていく。

⑬短時間等の勤務形態を増やして募集をしているが、会計年度任用職員の雇用が思うようにできていない。応募者側のニーズを考慮しながら、更に多様な勤務形態の募集を検討していく。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	1	事業名	公立保育所・公立幼稚園の運営	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保育成担当 学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保育成担当 教育部学校教育室教育推進担当

●令和7年度の事業評価

「生きる力の基礎」の育成	①職員による日々の絵本の読み聞かせや親子絵本貸し出しを実施した。また、地域人材活用による読み聞かせ等（R7:96回、R6:87回）を行い、絵本に親しむ機会を創出した。 ②③社会見学や地域探検などの野外活動、菜園活動等（R7:88回、R6:87回）を実施し、子どもたちの気づきや発見を大切にすることで好奇心や探究心を養うことにつながった。 ④登園時にあいさつ運動（5歳児：毎月1回）を実施した。 ⑤毎月、災害避難訓練・消火訓練・不審者対処避難訓練を行った。 ⑥手洗い・うがい、歯磨き指導等を日々の保育の中で経験を積み重ねたり歌や視覚教材を活用したりしながら行い、基本的生活習慣の確立に繋がった。 ⑦他国の食べ物を給食やおやつで知ることや、他国の歌や言葉に触れる機会を創出した。 ⑧主体性を育む環境づくりを行い、様々な活動や遊びを通して、自己肯定感を高め人と関わる力の育成につなげた。
「切れ目のない保育・教育」の実現	⑨⑩⑪⑫⑬⑭幼保小の円滑な接続、連携の基盤を構築するため、「幼保こ小連携担当者会」を年2回実施し、小学校教諭、公民の保育園、幼稚園、こども園の職員の交流、連携が進んだ。また、幼保こ小合同研修、小学校教諭の園見学、半日保育体験実施（R7:17園23回）、園職員の小学校の公開授業参加（R7:11園24人参加）により、相互理解が深まった。園ごとに近隣の学校と連携し、保育体験や見学も随時実施したことにより、学校・園の縦のつながり、他園との横のつながりも増え、安心して小学校就学を迎えることができる環境を整えた。 ⑮心理士と関係機関で公民36園の巡回相談（前期・後期）を行い、子どもの行動観察や職員配置の助言等を行った。また、学校教育室の指導主事や小学校教諭も参加することで、支援方法を共有し特別支援児保育の充実を図った。
家庭・地域の「子育て力」の向上	⑯⑰⑱在宅児を対象に毎月1～2回の園庭開放・育児教室を実施し、遊びの提供や育児に関する相談に努め、関係機関と連携した発達に関する学習会や子育て広場の案内をするなど、子育て家庭のサポートができた。また、在園児家庭に対しては、登降園時等、日常的な声かけを通じて子育ての相談対応や子育ての情報提供を行った。
需要と供給のバランスのとれた公立園及び民間園の提供	⑲広報・ホームページやハローワーク、養成校への就職案内等の送付、様々な勤務形態の募集など保育士確保に努めた。会計年度職員は、必要に応じて雇用できた。任期付職員は、2回募集を行い、5名採用予定に対して3名採用となった。（1月：5人募集に対して4人応募・3人採用、2月：1人程度募集に対して応募者なし）

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	1	事業名	公立保育所・公立幼稚園の運営	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保育成担当 学校教育室教育推進担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保育成担当 教育部学校教育室教育推進担当

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
職員研修(保幼小連携・主体的な保育・支援児保育等)参加者延べ人数(目標値: 617人) (前年度参加者数より、民間園(25園)の参加者を増加させる)	539 (100.0%)	592 (105.0%)	510 (82.7%)	B

※達成度の凡例 S: 目標達成 A: 達成率90%以上 B: 達成率80%以上 C: 達成率80%未満(前年度より改善) D: 達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

⑨⑩⑪⑫架け橋プログラムに関する研修の充実や学校・園の相互理解をさらに深めるため、意見交換の場を設け情報提供に努めていく。「架け橋期」においては、幼保こ小が意識的に協働し、幼児期の遊びを通した学びと小学校の学びをつなげることで、幼保こ小接続を進めていく。

⑬会計年度任用職員の多様な勤務形態の募集により、必要に応じて雇用につなげることができた。また、年度末に向けても登録者が増加したため、次年度に向けて必要な雇用数の確保ができた。引き続き、応募者側のニーズを考慮しながら、多様な勤務形態の募集を継続していく。

なお、職員研修の参加者延べ人数が減少しているが、研修講師との日程調整がつかず、例年より研修の開催回数が少なかったことが原因と考えられるため、今後は講師との日程調整期間は十分な余裕を持って行い、開催回数を確保する。

●評価委員からの主な意見

保育士確保については、多様な勤務形態の募集をするなど、課題に対応した取り組みについて評価する。
引き続き、採用に至った応募者からの聞き取りなども行いながら、応募者側のニーズを踏まえた取組みを継続されたい。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	2	事業名	公立保育所・公立幼稚園の施設維持管理	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保運営担当、 学校園管理室教育施設担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保運営担当、幼保育成担当

予算額	718	百万円	決算額	621	百万円
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供	公立園の適正配置	需要と供給の状況や公立園の老朽化などを踏まえたファシリティマネジメントに取り組む	①令和9年4月開園予定のいずみ国府こども園の実施設設計業務を完了し、整備工事に着手 ②公立の北松尾幼稚園及び保育園を統合し、令和8年4月開園予定の北松尾こども園の改修工事を実施 ③令和7年度末で廃園となる鶴山台第一保育園及び芦部保育園の除却工事のための実施設設計業務を実施

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
健全な育成を支援するための公立園の環境充実	安全で過ごしやすい施設環境の提供	園児がいきいきと過ごすことができる環境づくりや、老朽化する施設、備品等の計画的な更新に取り組む	④各保育所、各幼稚園の希望物品の購入希望を聴取し、実情に合わせた必要な物品を計画的に調達

●令和6年度の課題と改善策

①③芦部保育園の民営化及び公立認定こども園の開園について、旧消防庁舎の防災備蓄倉庫整備や教育センターの除却の進捗等を踏まえた対応が必要であるため、関係部署と情報共有しながら整備を進める。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	2	事業名	公立保育所・公立幼稚園の施設維持管理	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保運営担当、 学校園管理室教育施設担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保運営担当、幼保育成担当

●令和7年度の事業評価

需要と供給バランスのとれた 公立園及び民間園の提供	①令和9年4月開園予定のいずみ国府こども園について、予定どおり、実施設計業務を完了し、令和8年1月から整備工事に着手した。また、同園の開園に伴い廃園となる、国府幼稚園及び和泉保育園において、保護者説明会を開催するとともに、園舎等除却後の借地解消に向けて、地権者との各種調整を行い、円滑な事業の進行に努めた。 ②北松尾こども園の改修工事の実施に際し、園運営への負担を最小限にするため、密に調整を図るとともに、保護者説明会を開催したうえで、令和8年4月開園に向けて、各保育室や渡り廊下の改修など、各種工事を実施した。 ③令和7年度末で廃園し、令和8年度中に除却予定の鶴山台第一保育園及び芦部保育園について、除却工事の実実施設計業務を実施するとともに、園舎等除却後の借地解消に向けて、地権者との各種調整を行い、円滑な事業の進行に努めた。
健全な育成を支援するための 公立園の環境充実	④園現場へ物品の購入希望を聴取し、意見・要望を反映した物品の調達を行った。

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
芦部保育園の民営化に伴う民間認定こども園の事業進捗率 (目標値 R8.4.1時点100%：R5事業者決定、R6整備補助、R7整備補助・引継ぎ保育) (※達成状況の指標はR5:33% R6:66% R7:100%と設定)	33 (100.0%)	66 (100.0%)	100 (100.0%)	S
教育センター跡地の公立認定こども園の事業進捗率 (目標値 R9.4.1時点100%：R5基本計画、R6基本・実施設計、R7設計・工事、R8工事) (※達成状況の指標はR5:25% R6:50% R7:75% R8:100%と設定)	25 (100.0%)	50 (100.0%)	75 (100.0%)	S

※達成度の凡例 S：目標達成 A：達成率90%以上 B：達成率80%以上 C：達成率80%未満（前年度より改善） D：達成率80%未満（前年度より悪化）

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

①令和9年4月のいずみ国府こども園の開園に向けて、整備工事や開園準備等を遅滞なく進める必要があることから、関係課や国府幼稚園及び和泉保育園関係者、周辺住民等と調整、情報共有を図りながら、取組みを進めていく。 ※予算額と決算額の差異（97百万円）の主な要因は、（仮称）北西部こども園の整備工事入札において約46百万円落札減額、（仮称）北松尾こども園改修工事入札において約10百万円落札減額その他、公立園における燃料費について、価格急騰が想定よりも少なく約16百万円の不用額が生じたことである。

●評価委員からの主な意見

昨今は物価高騰や人手不足の問題があることから、情勢を注視し、計画的に取組むことが望まれる。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	3	事業名	民間園への支援と連携	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保運営担当、幼保育成担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保運営担当、幼保育成担当

予算額	7,313	百万円	決算額	7,009	百万円
-----	-------	-----	-----	-------	-----

※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を「●課題と改善策」の欄に記載

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供	待機児童の解消	公立園と民間園が連携し、待機児童の解消に取り組む	①途中入所(利用調整)を毎月実施 ②育休復帰・就労予定の保育士の子どもの優先入所 ③保育士就職支援補助金制度(新卒者以外も対象、勤務2年目の保育士等にも支給) ④中部地域に民間教育・保育施設等の新園開設等に取り組む

基本方向	目標	取組方針	令和7年度の主な取組内容(3項目以内)
民間園への支援・連携の充実	民間園運営等に対する補助及び各種情報の共有化	民間園が実施する幼児教育・保育等について、施設型給付・補助金等の運営支援を行うとともに、就学前教育を取り巻く各種情報の共有に取り組む	⑤施設型給付や各種補助金交付 ⑥市主催等の研修を民間園にも周知し、保育・教育の質を高める機会を共有 ⑦いぶきのPreSchool、新光明池幼稚園の施設修繕及び改修を補助

●令和6年度の課題と改善策

④令和6年4月時点で中部地域で2人の待機児童が発生している。令和6年度にニーズ調査を実施し策定した「和泉市こどもまんなか計画（令和7年度から令和11年度の5か年計画）」に基づき、中部地域での新園開設などの対策を行う。

IV 点検・評価報告書(令和7年度事業)

取組項目番号	3	事業名	民間園への支援と連携	担当課 (機構改革前)	教育・こども部こども未来室幼保運営担当、幼保育成担当
				担当課 (機構改革後)	こども・健康部こども未来室幼保運営担当、幼保育成担当

●令和7年度の事業評価

需要と供給バランスのとれた公立園及び民間園の提供	②本市の保育所等で就労する保育士等の子ども28人の優先入所を行った。 ③新たに勤務した38人と、2年目の39人の保育士等に対して補助を実施。 ④中部地域において令和9年4月に新設認定こども園を開設する運営事業者を決定した。
民間園への支援・連携の充実	⑤安定した民間園の運営を図ることを目的に、施設型給付費等の給付や補助金の交付を行った。 ⑥保育の質の更なる向上に資することを目的に、市主催の研修を15件案内し、121人の参加があった。 ⑦年度末までに、予定していた工程について整備完了予定。

●取組の成果

達成目標	令和5年度 ()は達成率	令和6年度 ()は達成率	令和7年度 ()は達成率	達成度
待機児童数(目標値:0人)	13 (99.7%)	2 (99.9%)	9 (99.8%)	A

※達成度の凡例 S:目標達成 A:達成率90%以上 B:達成率80%以上 C:達成率80%未満(前年度より改善) D:達成率80%未満(前年度より悪化)

●課題と改善策 ※予算額と決算額の差が50百万円以上または予算の執行率が50%以下の場合、その理由を記載

④令和7年4月時点で、中部地域において9人の待機児童が発生している。令和6年度に策定した「和泉市こどもまんなか計画」に基づき、中部地域において、令和7年度に選定した民間事業者による新設認定こども園の令和9年4月開園をめざす。
※予算額と決算額の差異(304百万円)の主な要因は、認定こども園新光明池幼稚園改築事業の工期変更により、令和7年度と令和8年度の2か年事業となったため。

●評価委員からの主な意見

待機児童解消に対する多面的な取組みについて評価する。中部地域に開園予定の新設認定こども園についても、運営事業者との調整や市民への周知など、適切に取組みを進められたい。
